

## 第 2 章 高齢者を取り巻く状況（案）

### 1. 各種統計データからみる吹田市の現状

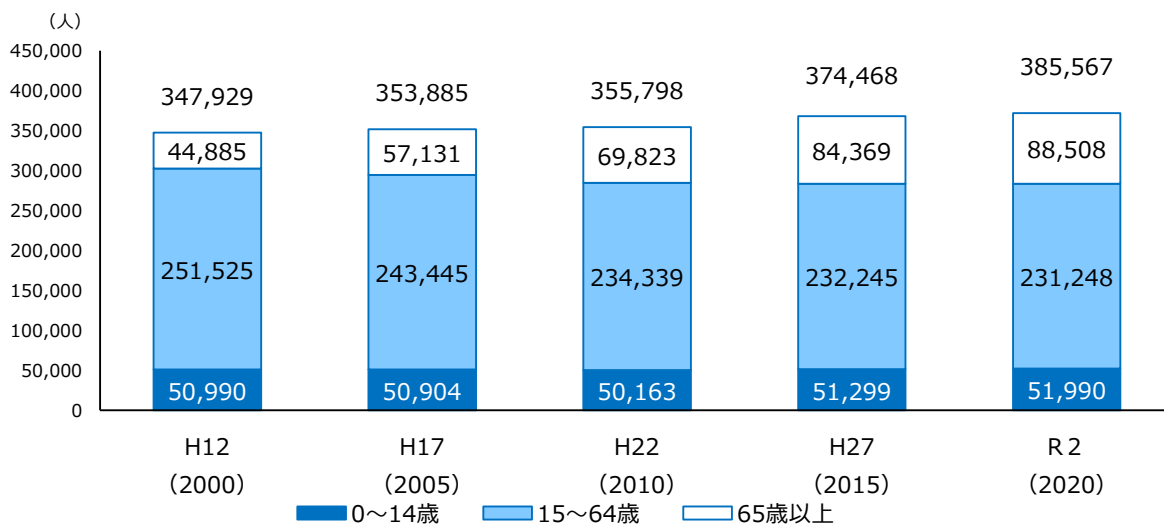
#### （1）20 年間ににおける人口の推移（国勢調査）

##### ①年齢 3 区分別人口の推移

全国的に人口が減少に転じている中、本市の人口は年々増加しており、令和 2 年で 385,567 人と、この 20 年間で 1.1 倍となっています。

年齢 3 区分別にみると、0～14 歳の年少人口は横ばい、15～64 歳の生産年齢人口は減少している中、高齢者人口は大きく増加しており、令和 2 年で 88,508 人と、この 20 年間で 2 倍近くまで増加しています。

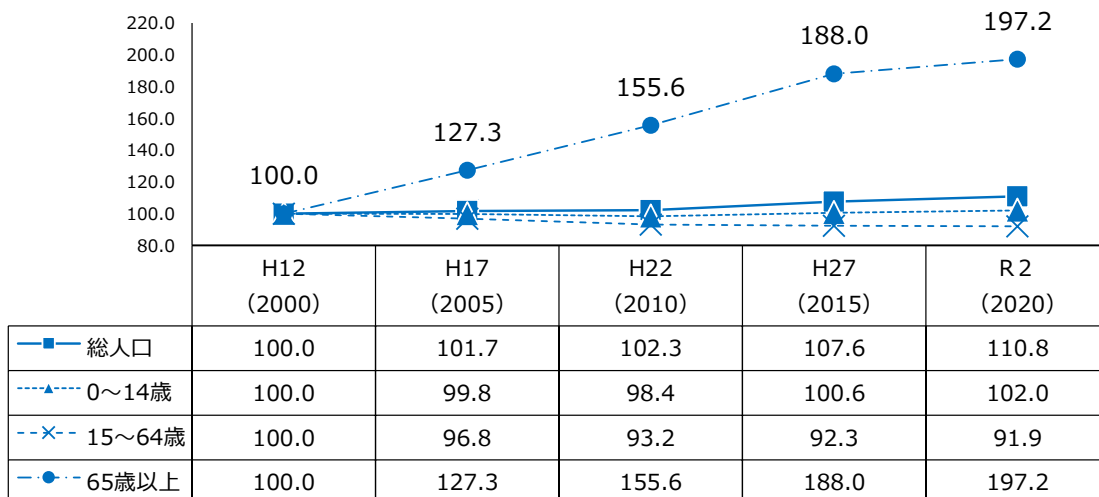
【年齢 3 区分別人口の推移】



資料：各年国勢調査

※年齢不詳人口は少数のため、表記していません。総人口は年齢不詳人口を含んでいます。

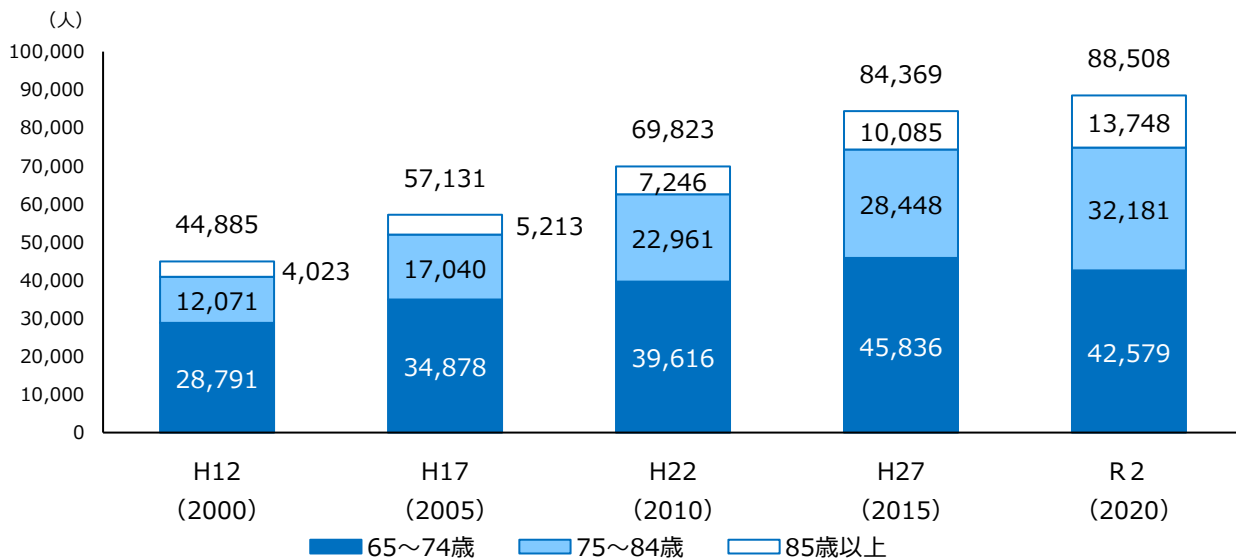
【平成 12 年（2000 年）を 100.0 とした人口指数】



資料：各年国勢調査

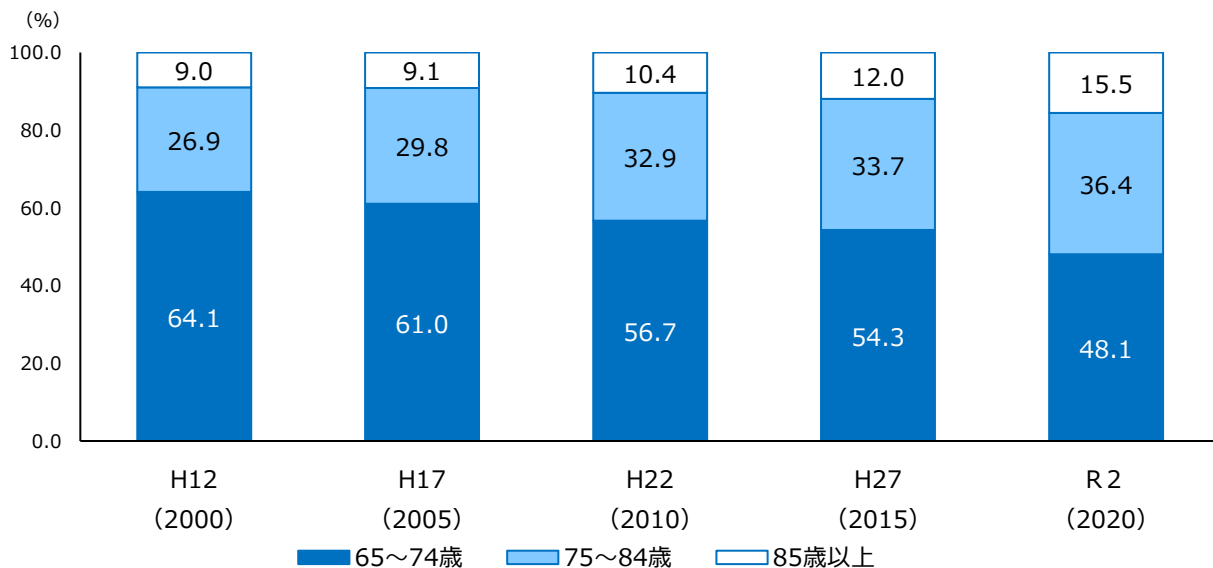
高齢者人口の構成をみると、平成 12 年は全体の 64.1% を 65～74 歳の前期高齢者が占めていましたが、令和 2 年では 75 歳以上の後期高齢者が全体の 51.9% を占めており、うち 15.5% が 85 歳以上の高齢者となっています。

【高齢者人口の推移】



資料：各年国勢調査

【高齢者人口の構成割合の推移】

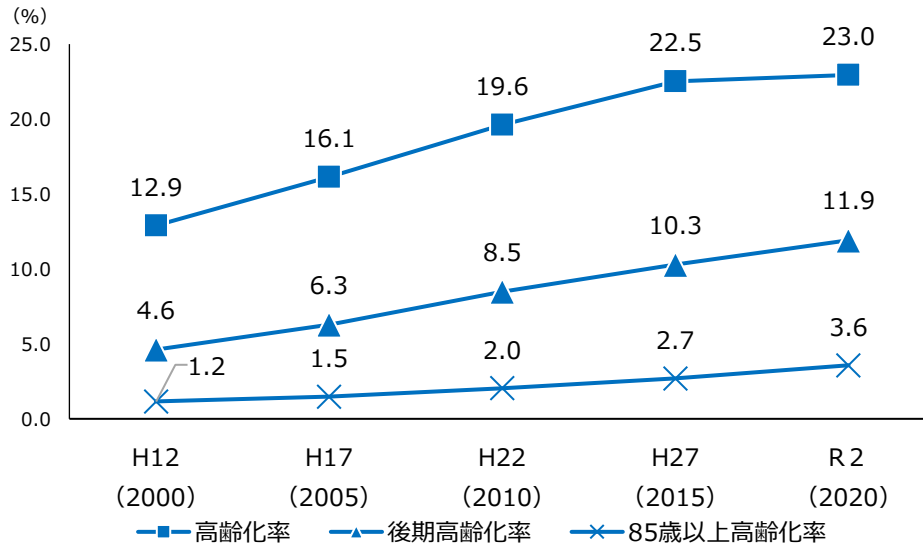


資料：各年国勢調査

高齢化率は平成 12 年で 12.9%、令和 2 年で 23.0%と、この 20 年で 10.1 ポイント上昇していますが、平成 27 年から令和 2 年にかけては 0.5 ポイントの上昇にとどまっています。

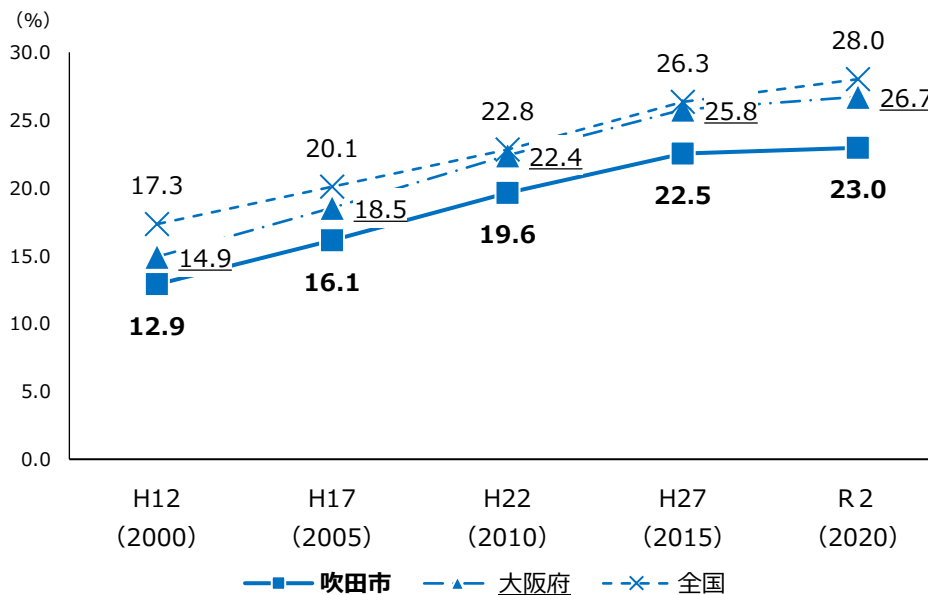
本市の高齢化率・後期高齢化率は全国・大阪府より低くなっています。

【高齢化率・後期高齢化率・85歳以上高齢化率の推移】



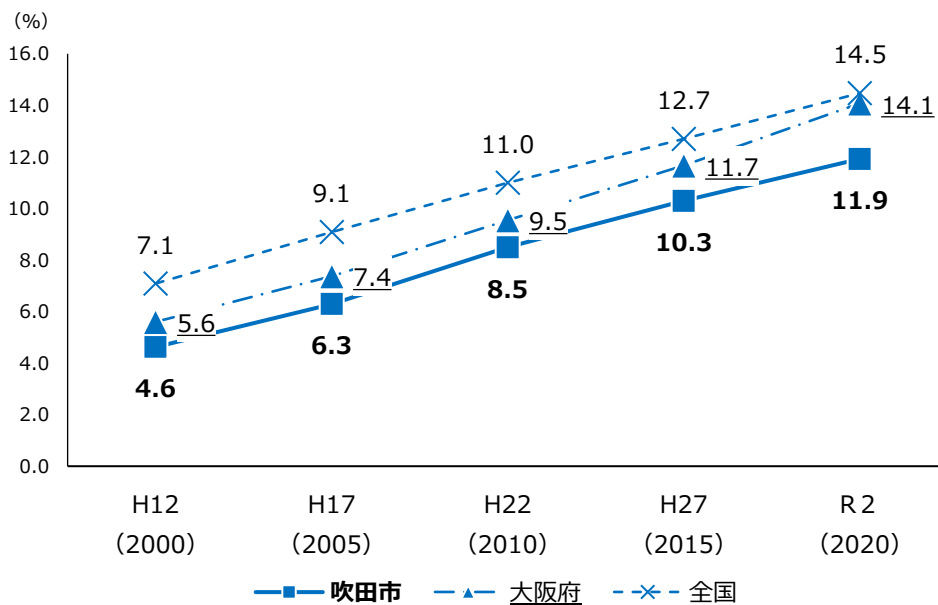
資料：各年国勢調査

【高齢化率の推移（全国・大阪府との比較）】



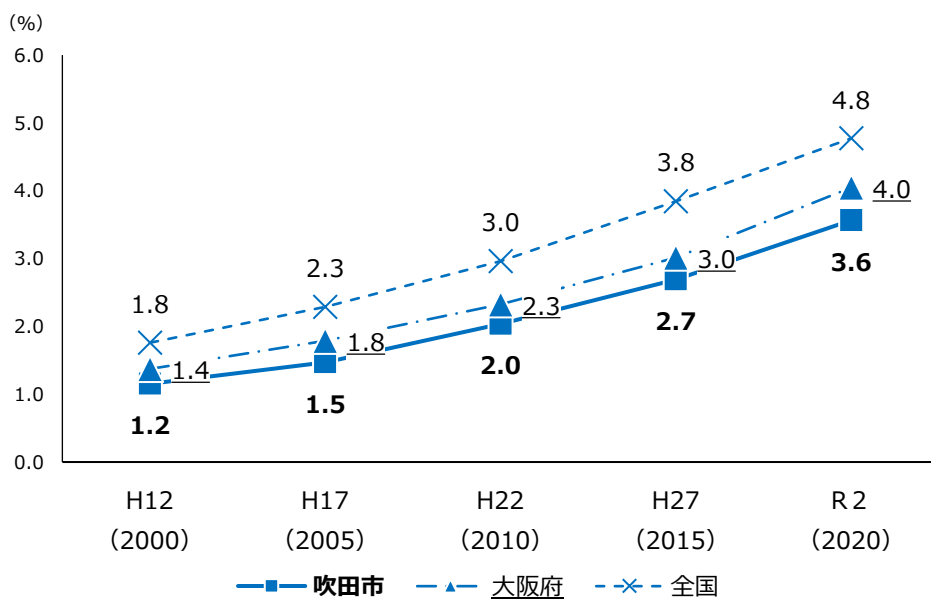
資料：各年国勢調査

【後期高齢化率（75歳以上）の推移（全国・大阪府との比較）】



資料：各年国勢調査

【85歳以上高齢化率の推移（全国・大阪府との比較）】



資料：各年国勢調査

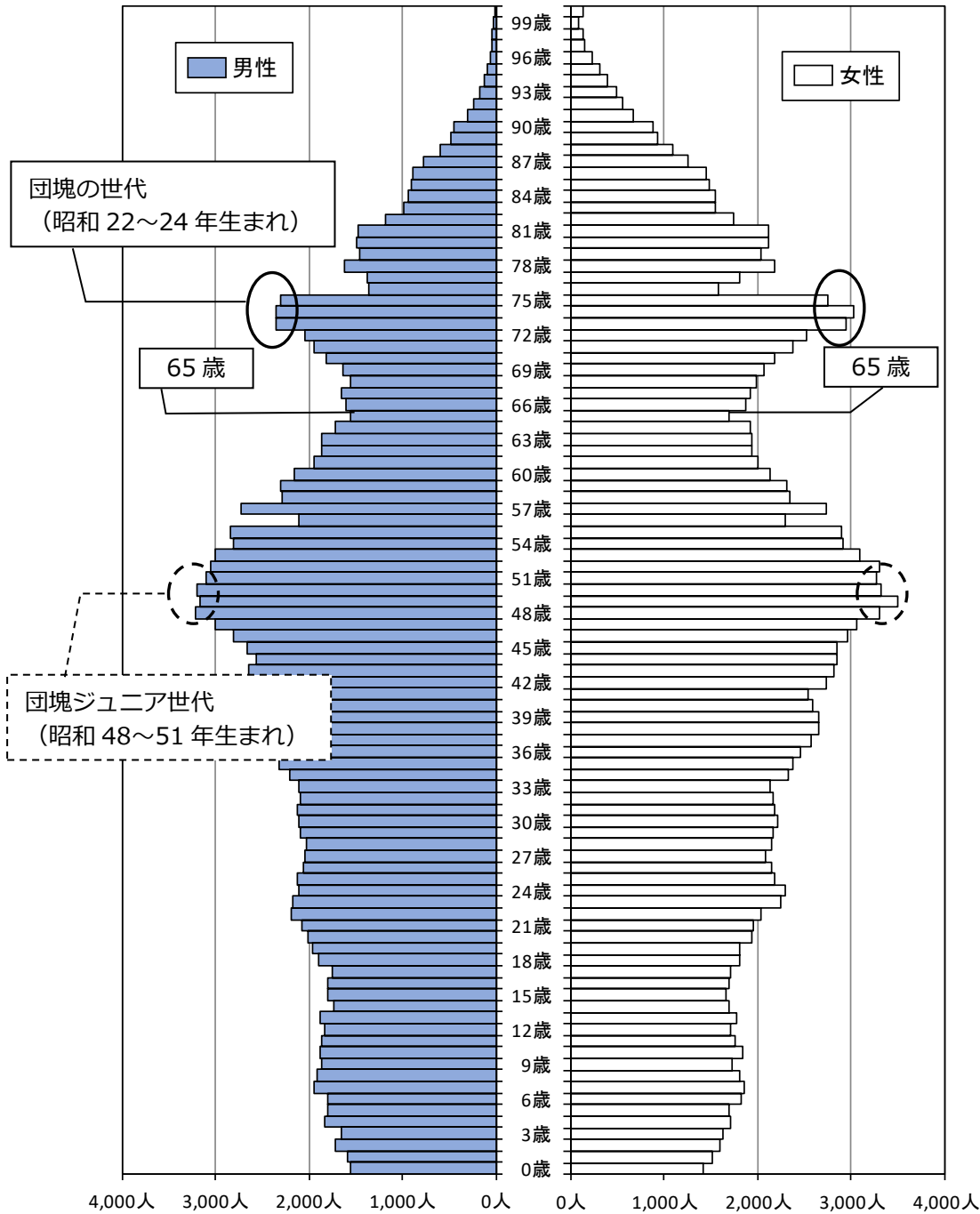
## (2) 近年の人口の推移 (住民基本台帳)

### ①人口ピラミッド【令和4年(2022年)9月末現在】

令和4年9月末の人口は381,024人となっています。

団塊の世代が今後3年間で後期高齢期を迎えるため、概ね令和7年(2025年)まで後期高齢者が大きく増えると考えられます。

令和4年9月末で高齢期を迎えた人は最も少なく、人口構成上、今後高齢期を迎える人は徐々に増えていくと考えられます。



資料：住民基本台帳 (令和4年9月末現在)

②人口の推移

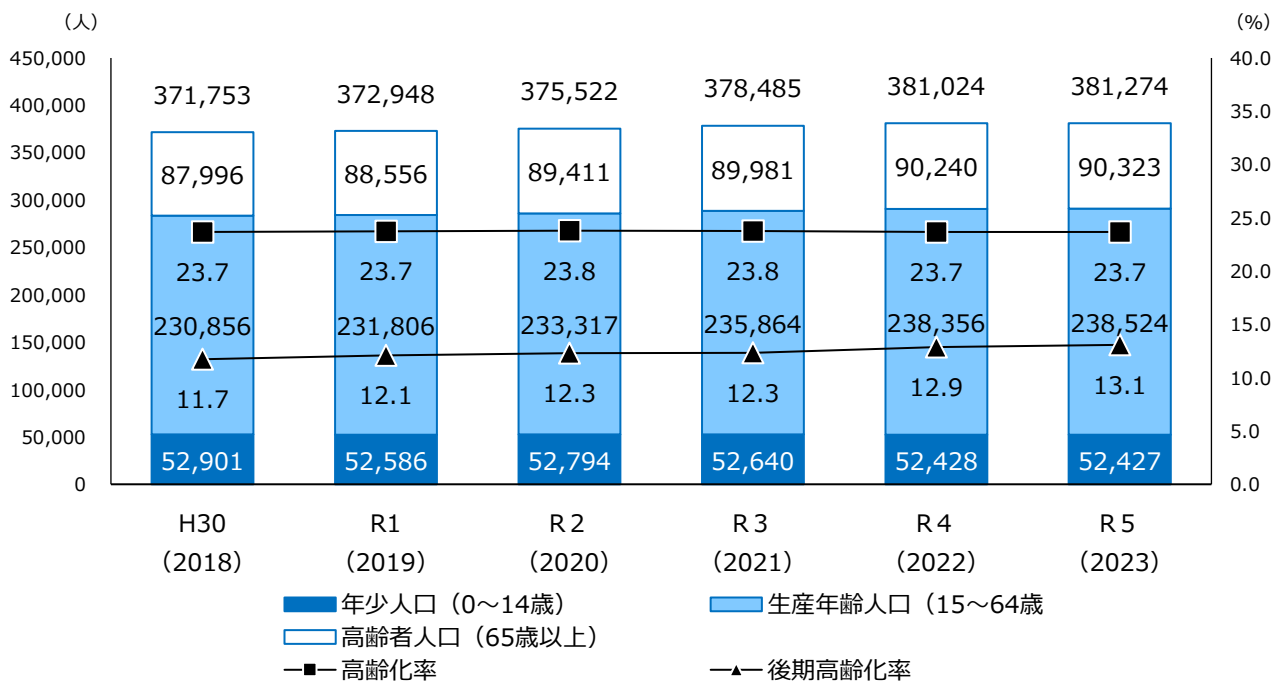
総人口は令和5年1月末で381,274人と、年々増加しています。

高齢者人口は令和5年1月末で90,323人と、年々増加し、高齢化率は23.7%、後期高齢化率は13.1%となっています。

【年齢別人口の推移】

単位：人

	第7期			第8期		
	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
総人口	371,753	372,948	375,522	378,485	381,024	381,274
年少人口 (0~14歳)	52,901	52,586	52,794	52,640	52,428	52,427
生産年齢人口 (15~64歳)	230,856	231,806	233,317	235,864	238,356	238,524
40~64歳	126,238	127,308	128,966	130,424	132,038	132,430
高齢者人口 (65歳以上)	87,996	88,556	89,411	89,981	90,240	90,323
65~74歳	44,390	43,397	43,225	43,303	41,141	40,383
75~84歳	31,464	32,391	32,465	31,961	33,617	34,165
85歳以上	12,142	12,768	13,721	14,717	15,482	15,775
高齢化率	23.7%	23.7%	23.8%	23.8%	23.7%	23.7%
後期高齢化率	11.7%	12.1%	12.3%	12.3%	12.9%	13.1%



資料：住民基本台帳（各年9月末現在）※令和5年は5月末現在

③高齢者人口の推移

高齢者人口を年齢別にみると、65～74歳の前期高齢者は令和4年に減少に転じています。一方、75～84歳・85歳以上の後期高齢者は年々増加しています。

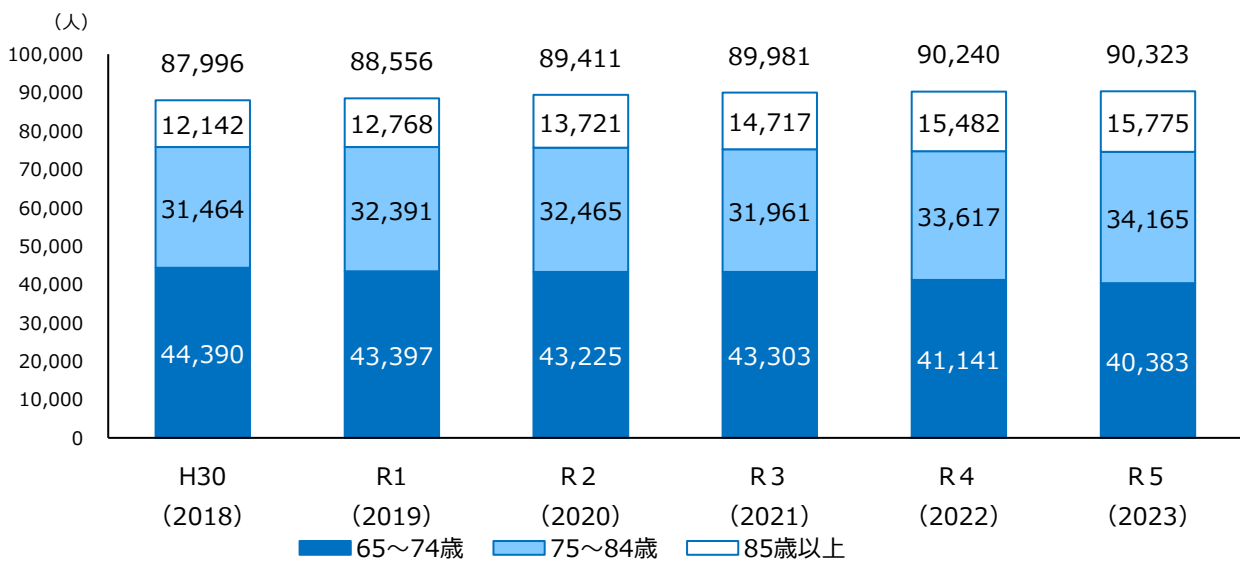
構成割合をみると、令和元年に75歳以上の後期高齢者割合が65～74歳の前期高齢者割合を上回り、令和5年で55.3%となっています。

【年齢別高齢者人口と構成割合の推移】

単位：人、%

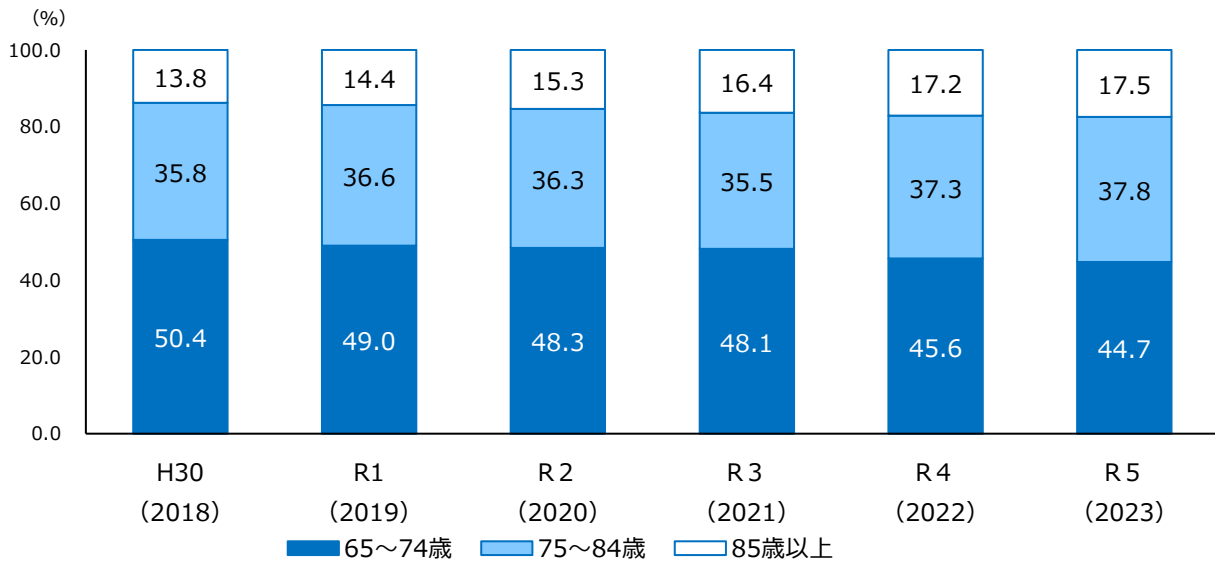
		第7期			第8期		
		H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
人数 (人)	高齢者人口 (65歳以上)	87,996	88,556	89,411	89,981	90,240	90,323
	65～74歳	44,390	43,397	43,225	43,303	41,141	40,383
	75歳以上	43,606	45,159	46,186	46,678	49,099	49,940
	75～84歳	31,464	32,391	32,465	31,961	33,617	34,165
	85歳以上	12,142	12,768	13,721	14,717	15,482	15,775
構成割合 (%)	高齢者人口 (65歳以上)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	65～74歳	50.4	49.0	48.3	48.1	45.6	44.7
	75歳以上	49.6	51.0	51.7	51.9	54.4	55.3
	75～84歳	35.8	36.6	36.3	35.5	37.3	37.8
	85歳以上	13.8	14.4	15.3	16.4	17.2	17.5

【年齢別高齢者人口の推移】



資料：住民基本台帳（各年9月末現在）※令和5年は1月末現在

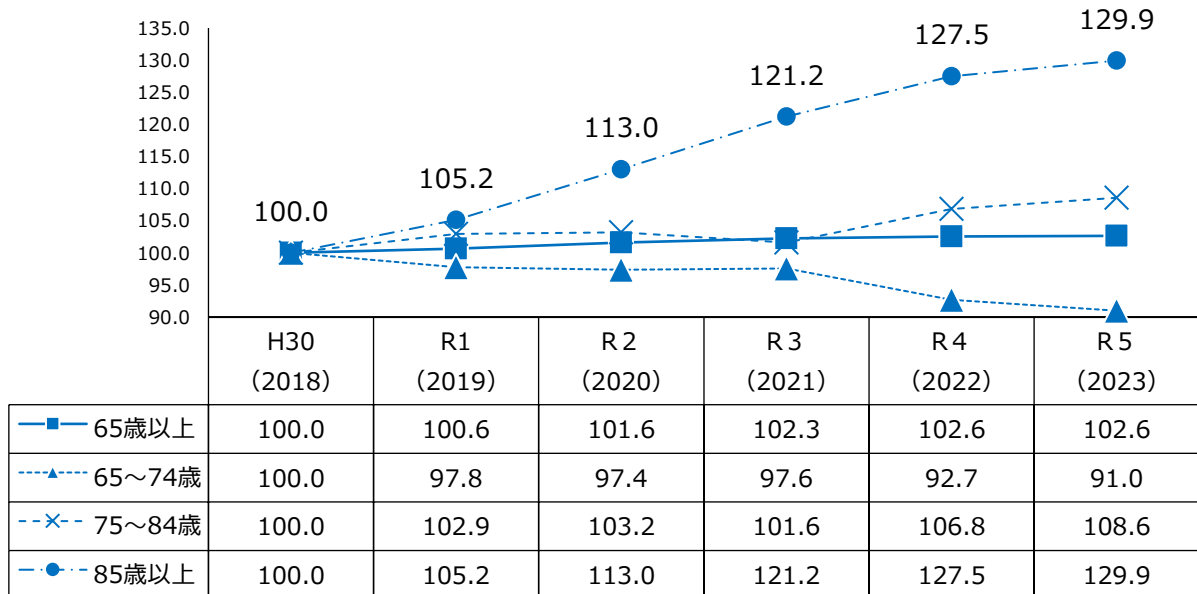
【年齢別高齢者人口構成割合の推移】



資料：住民基本台帳（各年9月末現在）※令和5年は1月末現在

平成30年を100.0とした人口指数をみると、65歳以上高齢者はほぼ横ばいとなっている中、65～74歳の前期高齢者は減少傾向にある一方で、75歳以上の後期高齢者は増加しています。特に85歳以上高齢者は平成30年から令和5年にかけて約1.3倍と、大きく増加しています。

【平成30年を100.0とした高齢者人口指数】



資料：住民基本台帳（各年9月末現在）※令和5年は1月末現在



### (3) 世帯の状況

#### ①一般世帯数、高齢者のいる世帯の推移

一般世帯数は令和2年で179,962世帯と年々増加しています。

うち高齢者のいる世帯も年々増加しており、令和2年で58,226世帯となっています。一般世帯に占める高齢者世帯の割合は令和2年で32.4%と、平成27年から令和2年にかけてわずかに減少しています。

本市の高齢者のいる世帯の割合は全国・大阪府に比べて低くなっています。

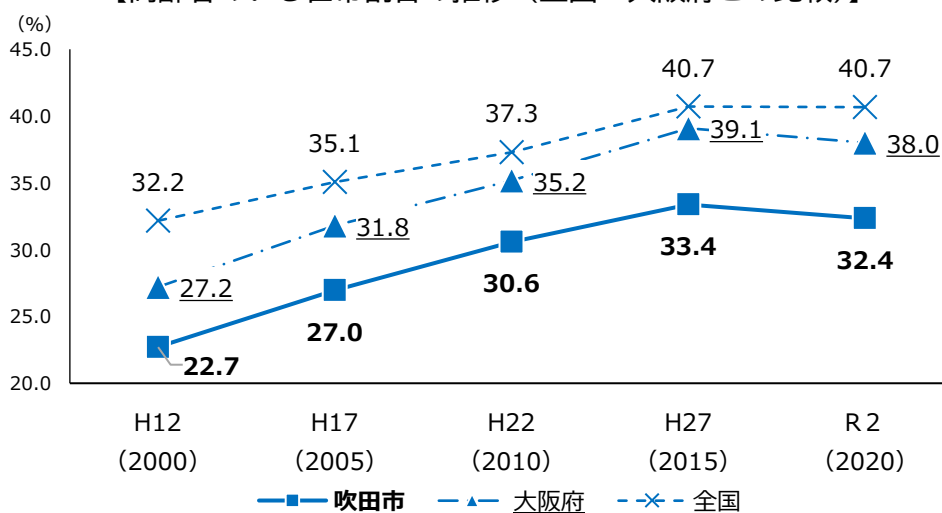
#### 【一般世帯数、高齢者のいる世帯の推移】

単位：世帯、%

		H12 (2000)	H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)	R2 (2020)
一般世帯数	世帯数	141,340	147,242	154,587	168,363	179,962
	割合	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
高齢者のいる世帯	世帯数	32,098	39,696	47,273	56,197	58,226
	割合	22.7	27.0	30.6	33.4	32.4
うち高齢者単身世帯	世帯数	8,317	11,337	14,539	18,324	19,773
	割合	5.9	7.7	9.4	10.9	11.0
うち高齢者夫婦のみ世帯 (夫婦ともに65歳以上)	世帯数	7,311	9,979	12,592	15,605	17,178
	割合	5.2	6.8	8.1	9.3	9.5
その他一般世帯	世帯数	109,242	107,546	107,314	112,166	121,736
	割合	77.3	73.0	69.4	66.6	67.6
大阪府高齢者のいる世帯	割合	27.2	31.8	35.2	39.1	38.0
全国高齢者のいる世帯	割合	32.2	35.1	37.3	40.7	40.7

資料：各年国勢調査

#### 【高齢者のいる世帯割合の推移（全国・大阪府との比較）】

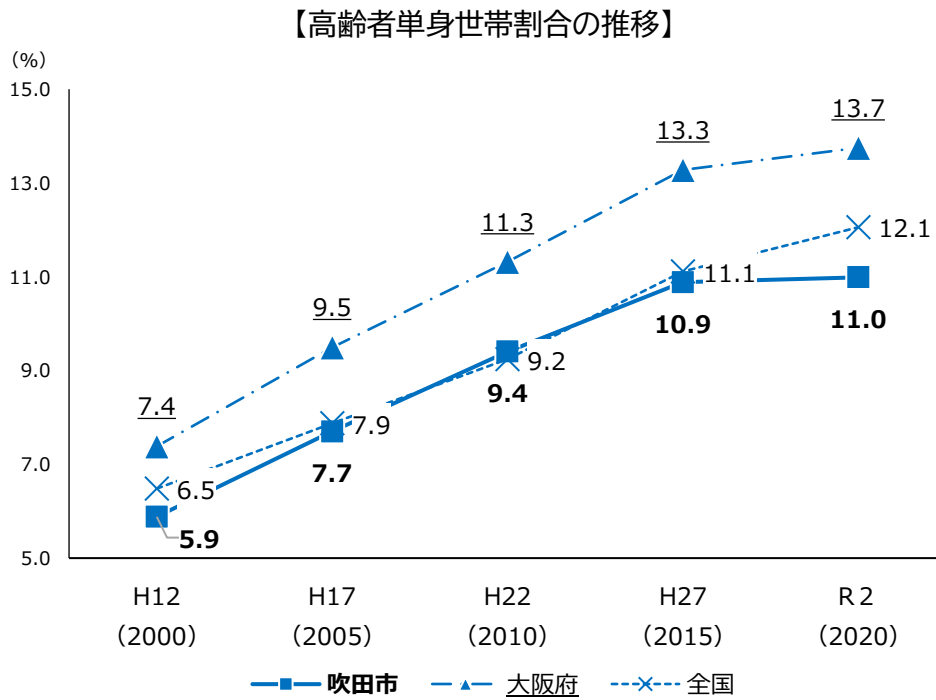


資料：各年国勢調査

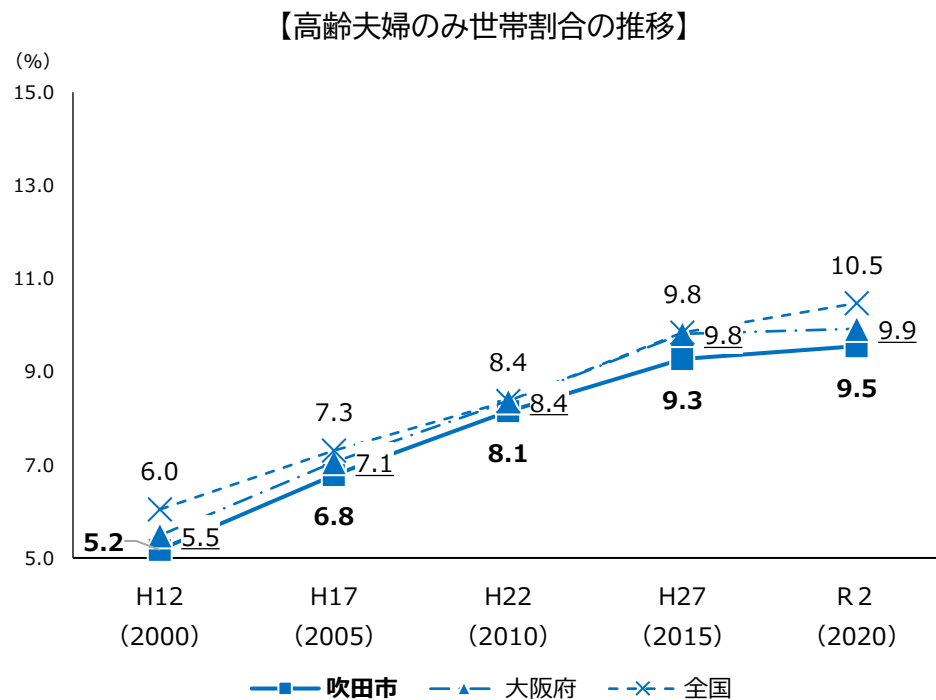
②高齡者単身世帯割合、高齡者夫婦のみ世帯割合の推移

高齡者単身世帯割合の推移をみると、令和2年で11.0%と、平成27年までは大きく増加してきましたが、平成27年から令和2年にかけてほぼ横ばいとなっています。全国・大阪府より高齡者単身世帯割合は低くなっています。

高齡者夫婦のみ世帯は令和2年で9.5%と、高齡者単身世帯と同様に平成27年から令和2年にかけてほぼ横ばい、全国・大阪府より低くなっています。



資料：各年国勢調査



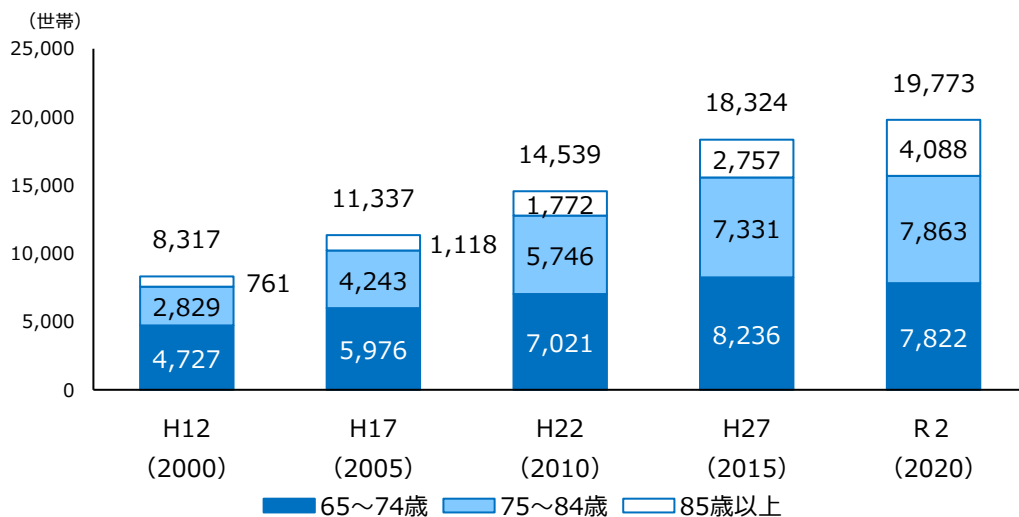
資料：各年国勢調査

### ③年齢別高齢者単身世帯の推移

年齢別に高齢者単身世帯をみると、65～74歳の前期高齢者は平成27年から令和2年にかけて減少していますが、75歳以上の後期高齢者は年々増加しています。

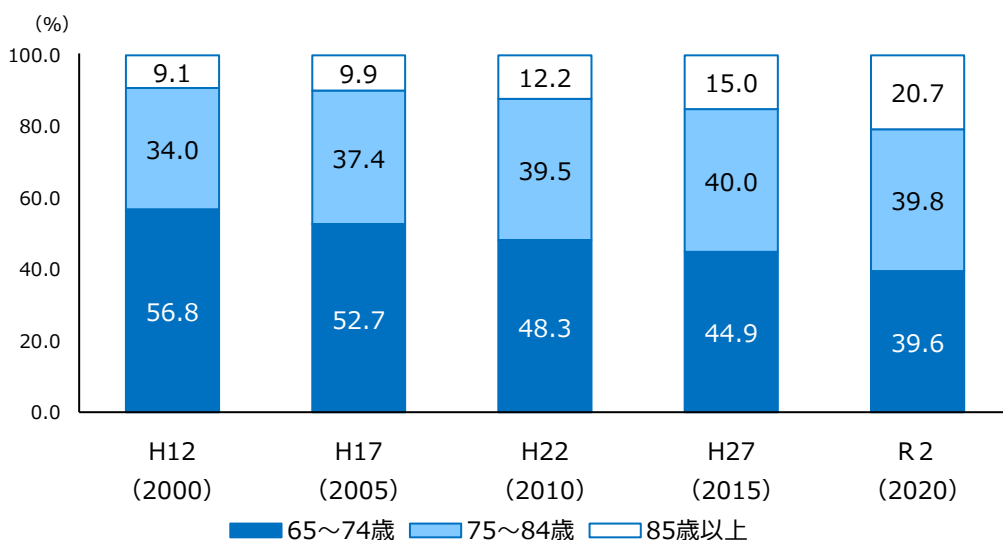
世帯構成割合をみると、平成22年で75歳以上の単身世帯が半数を超え、令和2年では6割を占めています。85歳以上の単身世帯は令和2年で2割となっています。

【年齢別高齢者単身世帯の推移】



資料：各年国勢調査

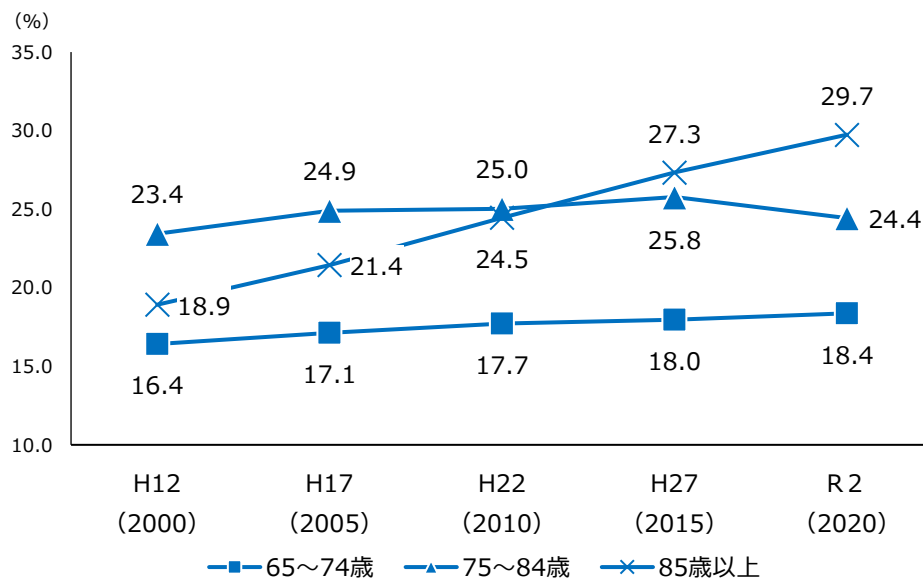
【年齢別高齢者単身世帯構成割合の推移】



資料：各年国勢調査

高齢者単身世帯率をみると、75～84歳は増減していますが、65～74歳の前期高齢者及び85歳以上の高齢者において単身世帯率が増加しています。特に85歳以上の高齢者は平成12年の18.9%が令和2年で29.7%と、この20年で10.8ポイント増加しています。

【年齢別高齢者単身世帯率\*の推移】



資料：各年国勢調査

\*上記の高齢者単身世帯率は「高齢者単身世帯数÷高齢者人口」により算出しています。

## 2. 支援を必要とする人の状況

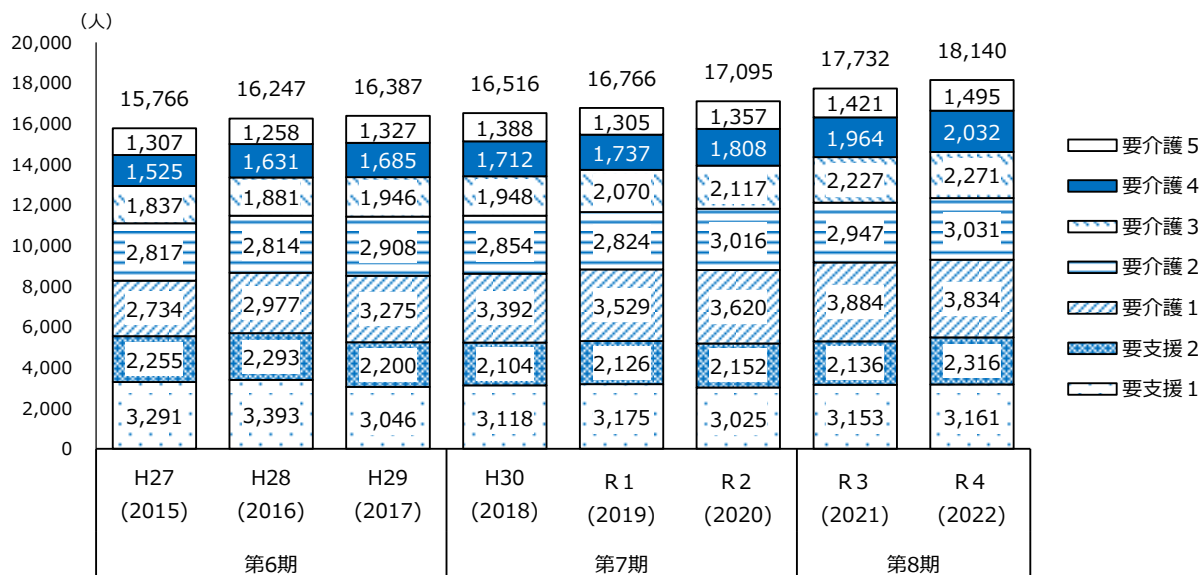
### (1) 要支援・要介護認定者の状況

#### ① 要支援・要介護認定者数の推移

要支援・要介護認定者数は年々増加しており、令和4年で18,140人となっています。令和4年を要介護度別にみると、要介護1が3,834人（構成比21.1%）で最も多く、次いで要支援1が3,161人（構成比17.4%）となっています。

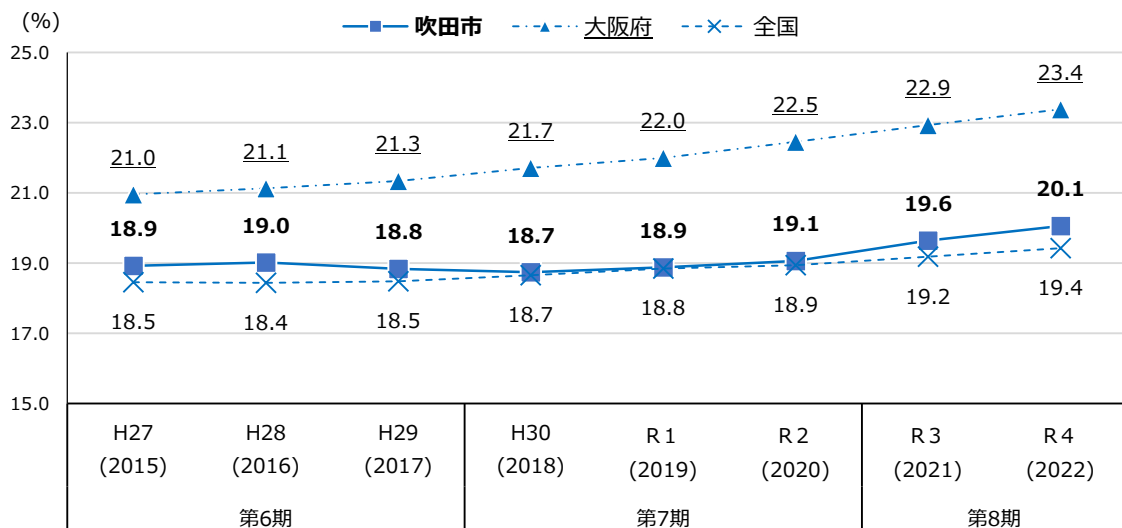
要支援・要介護認定率は令和4年で20.1%と、全国より高く、大阪府より低くなっています。

【要支援・要介護認定者の推移（第2号含む）】



資料：介護保険状況報告（各年9月月報）

【要支援・要介護認定率の推移（第2号含む）】

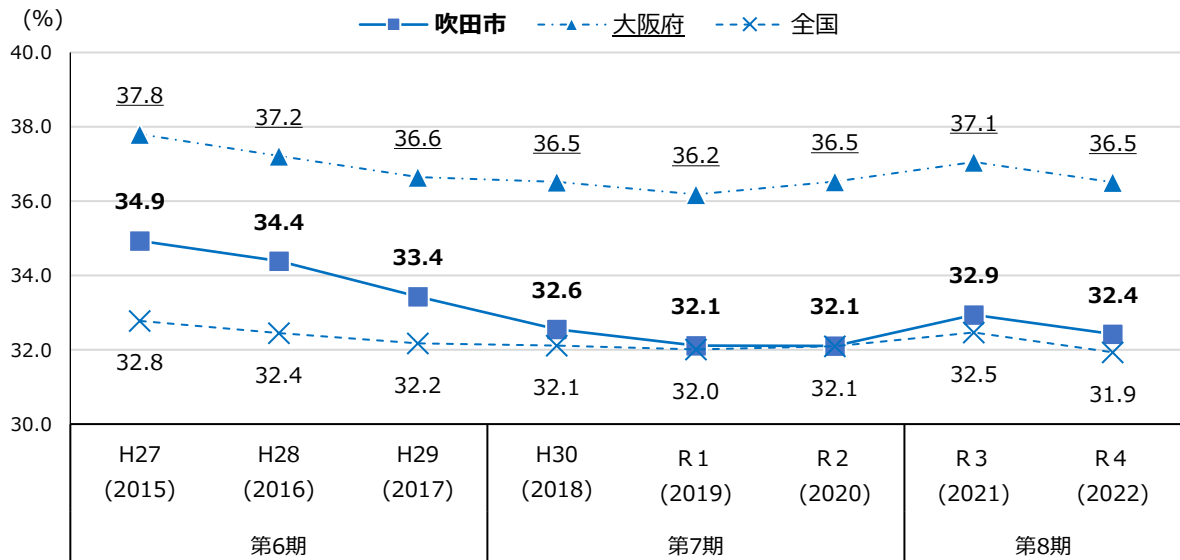


資料：介護保険状況報告（各年9月月報）

後期高齢者の要支援・要介護認定者率は令和元年まで毎年減少していましたが、令和3年で一旦増加し、令和4年で再度減少しています。後期高齢者の要支援・要介護認定率は32.4%と、全国より高く、大阪府より低くなっています。

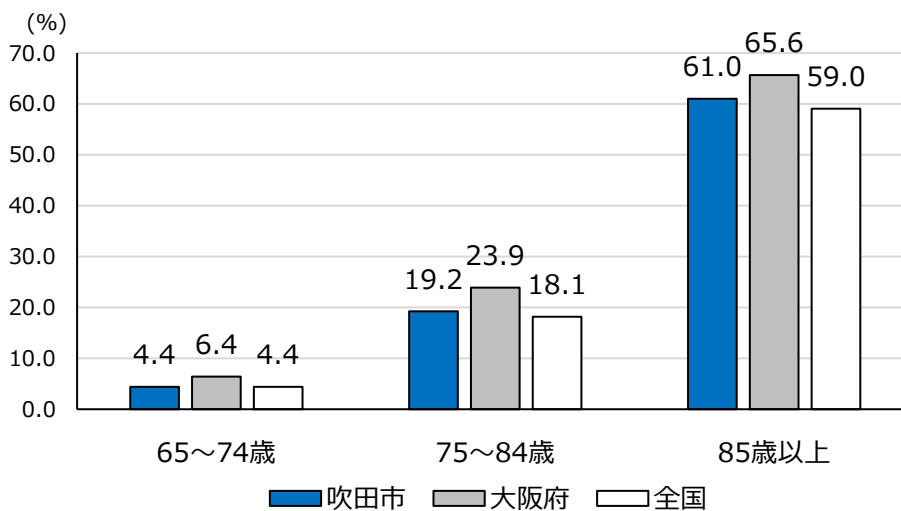
令和4年の要支援・要介護認定率を年齢別にみると、75～84歳は19.2%に対し、85歳以上では61.0%と、85歳以上になると要支援・要介護認定率は急激に上昇します。

【後期高齢者の要支援・要介護認定率の推移】



資料：介護保険状況報告（各年9月月報）

【年齢別要支援・要介護認定率（令和4年）】



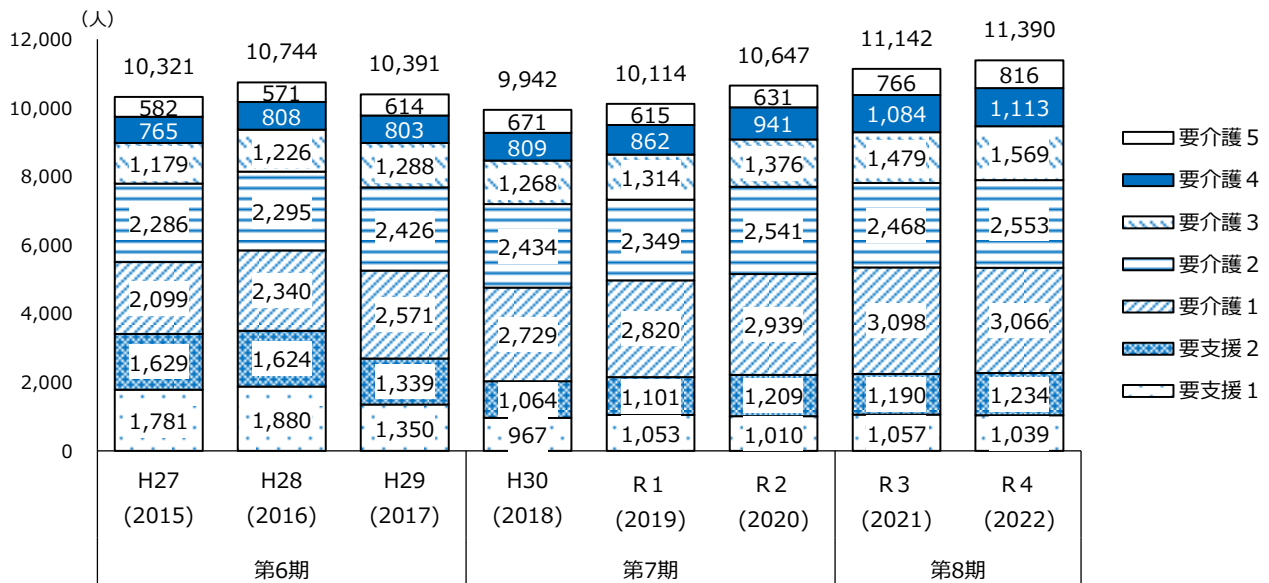
資料：介護保険状況報告（令和4年9月月報）

②居宅サービス受給者の状況

居宅サービスの受給者は、平成 29 年 4 月から介護予防訪問介護と介護予防通所介護が介護予防日常生活支援総合事業に移行したため、一旦減少しますが、その後は増加傾向にあり、令和 4 年で 11,390 人となっています。

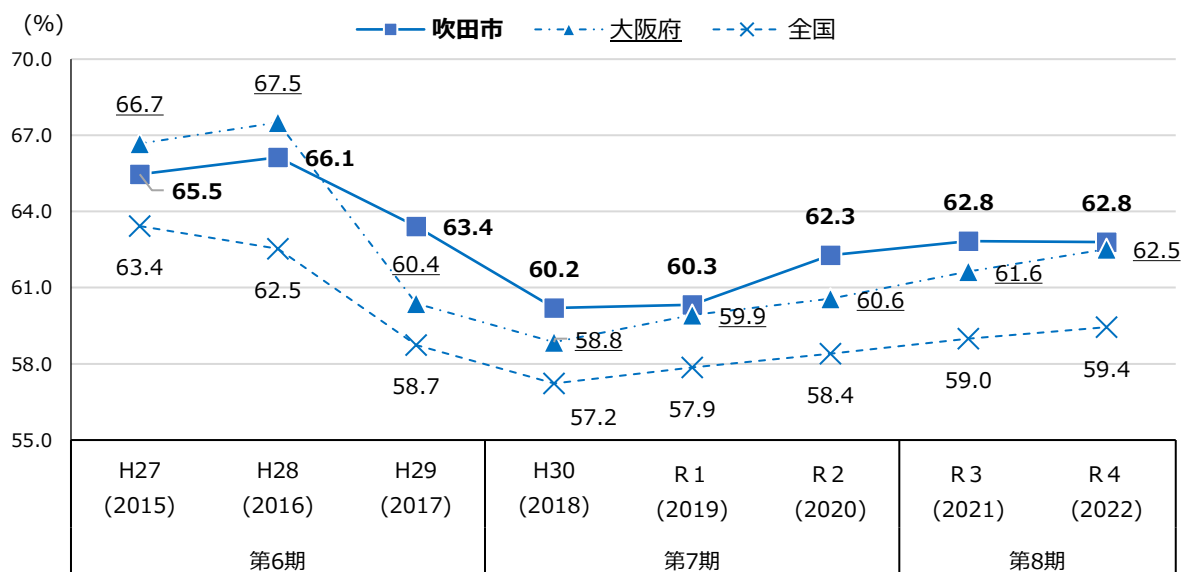
居宅サービス受給率は令和 4 年で 62.8%と、全国より高く、大阪府とほぼ同じ割合となっています。

【居宅サービス受給者の推移】



資料：介護保険状況報告（各年 11 月月報【9 月利用分】）

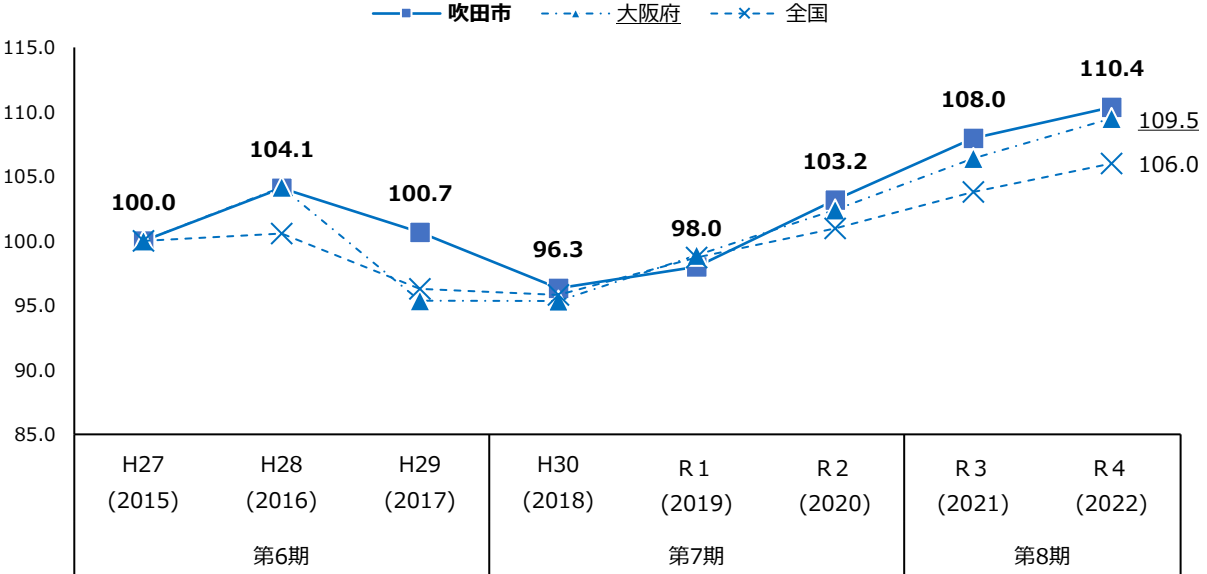
【居宅サービス受給率の推移】



資料：介護保険状況報告（各年 11 月月報【9 月利用分】）

平成 27 年を 100.0 とした居宅サービス受給者指数をみると、平成 30 年以降増加しており、令和 4 年で 110.4 と、全国・大阪府よりも上昇幅が大きくなっています。

【平成 27 年（2015 年）を 100.0 とした居宅サービス受給者指数】



資料：介護保険状況報告（各年 11 月月報【9 月利用分】）

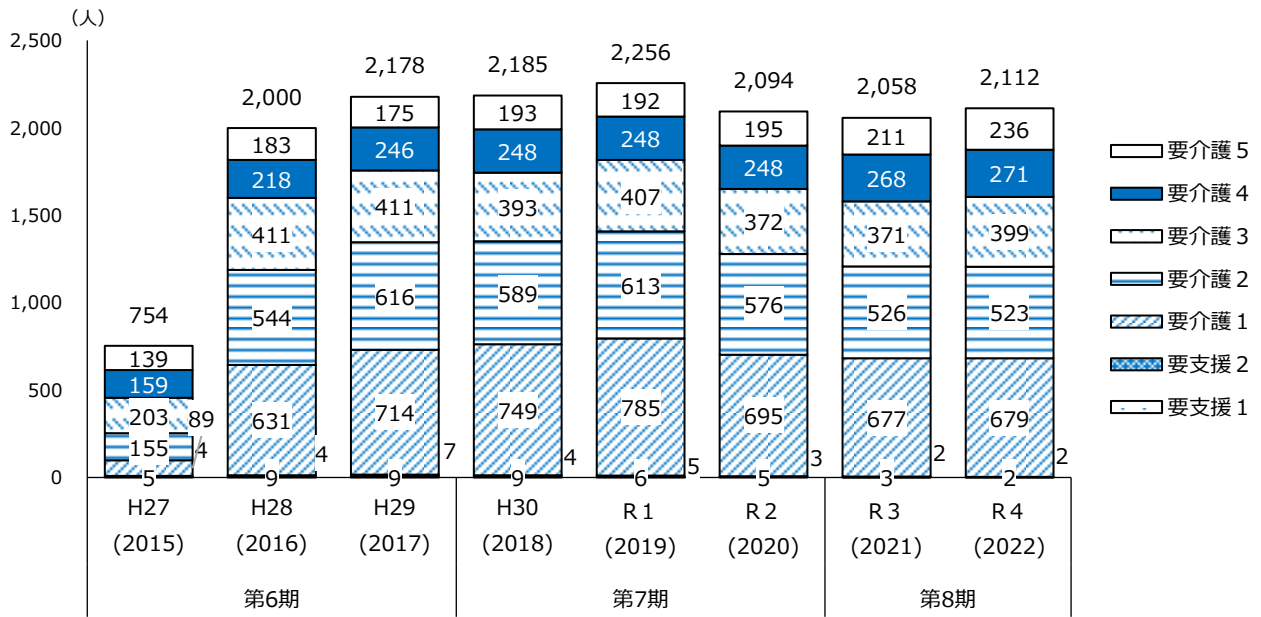


③地域密着型サービス受給者の状況

地域密着型サービスの受給者は、平成 28 年 4 月から小規模の通所介護事業所が地域密着型サービスに位置づけられたため、平成 27 年から平成 28 年にかけて大きく増加します。平成 28 年以降は増減を繰り返しており、令和 4 年で 2,112 人となっています。

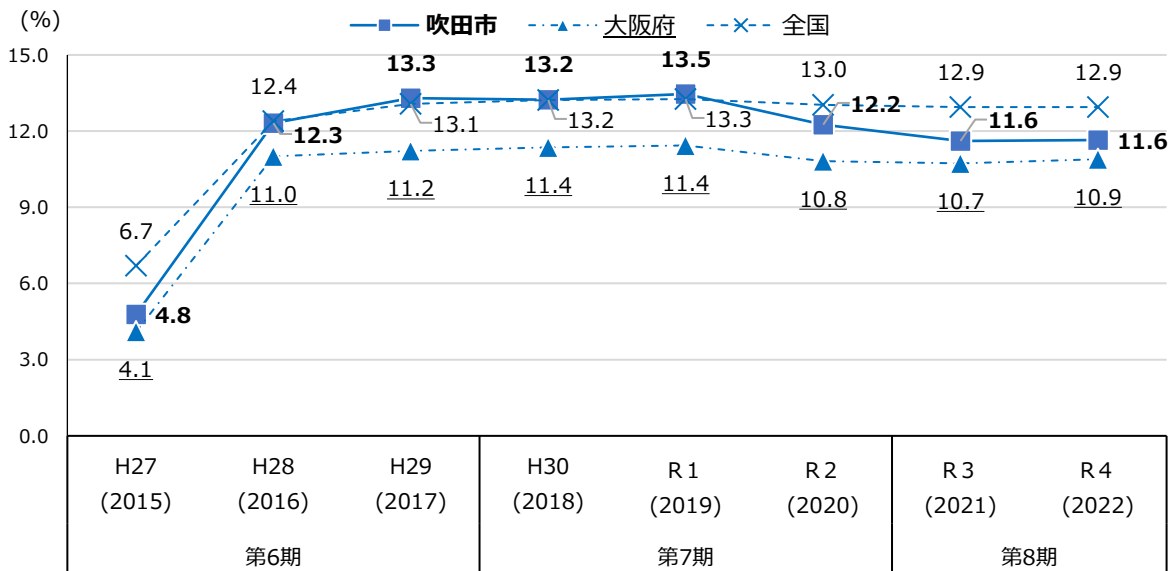
地域密着型サービス受給率は令和 4 年で 11.6%と、全国より低く、大阪府より高くなっています。

【地域密着型サービス受給者の推移】



資料：介護保険状況報告（各年 11 月月報【9 月利用分】）

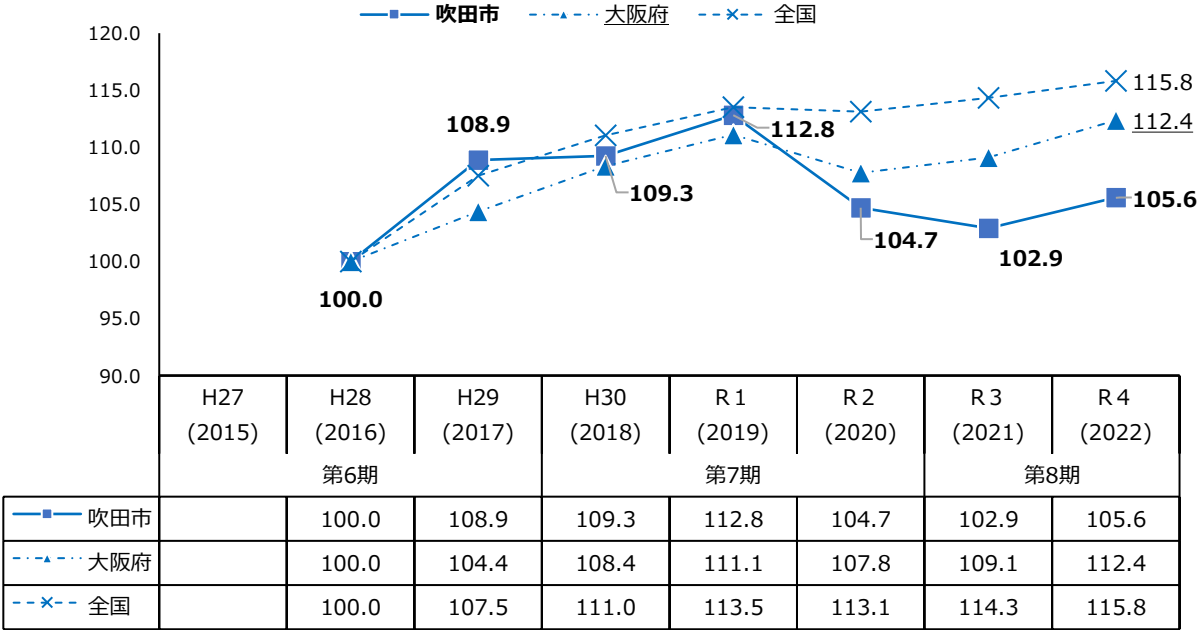
【地域密着型サービス受給率の推移】



資料：介護保険状況報告（各年 11 月月報【9 月利用分】）

平成 28 年を 100.0 とした地域密着型サービス受給者指数をみると、平成 30 年から平成から減少し、令和 3 年から令和 4 年にかけて再度増加します。令和 4 年で 105.6 と、全国・大阪府より低くなっています。

【平成 28 年（2016 年）を 100.0 とした地域密着型サービス受給者指数】



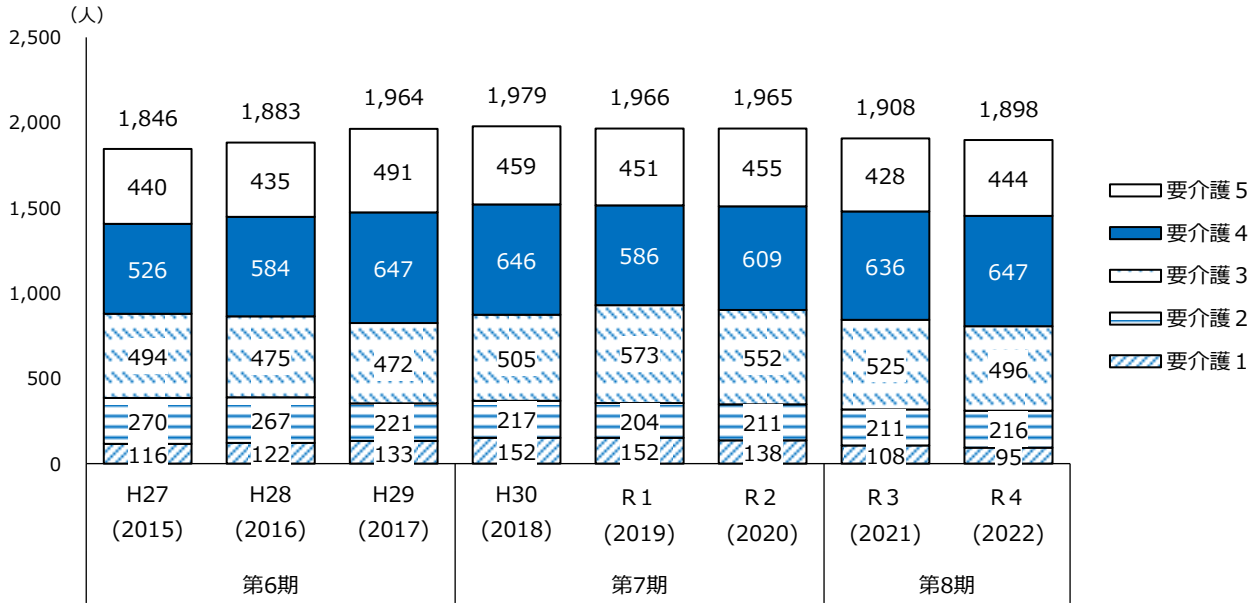
資料：介護保険状況報告（各年 11 月月報【9 月利用分】）  
 ※平成 27 年から平成 28 年の上昇を加味した場合、上昇率が極端に大きいため、平成 28 年を 100.0 とし、算出。

④施設サービス受給者の状況

施設サービスの受給者は、各年で増減を繰り返していますが令和元年以降は減少傾向にあり、令和4年で1,898人となっています。

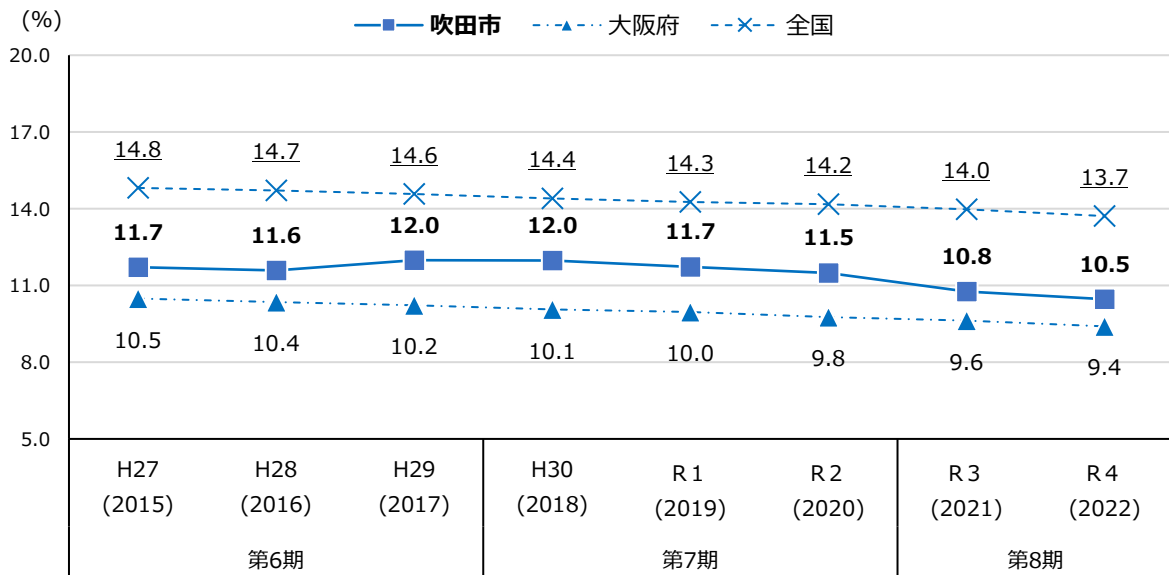
施設サービス受給率は令和4年で10.5%と、全国より低く、大阪府より高くなっています。

【施設サービス受給者の推移】



資料：介護保険状況報告（各年11月月報【9月利用分】）

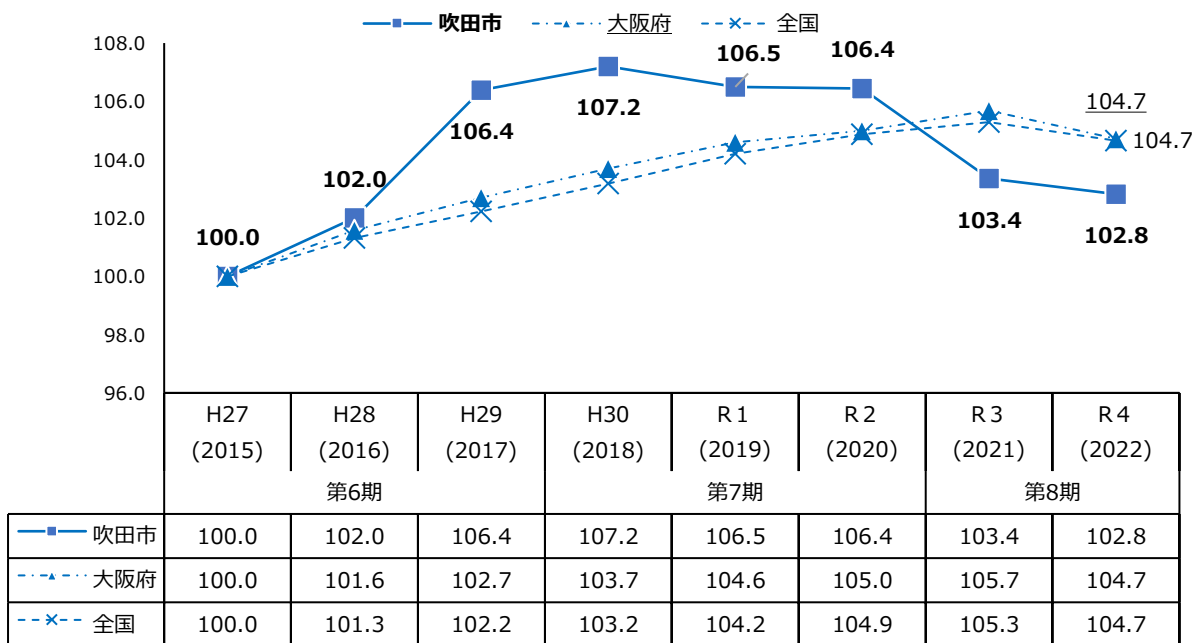
【施設サービス受給率の推移】



資料：介護保険状況報告（各年11月月報【9月利用分】）

平成 27 年を 100.0 とした施設サービス受給者指数をみると、平成 29 年から令和 2 年まで全国・大阪府よりも指数が高くなっていましたが、令和 3 年以降は全国・大阪府よりも低くなっています。

【平成 27 年（2015 年）を 100.0 とした施設サービス受給者指数】

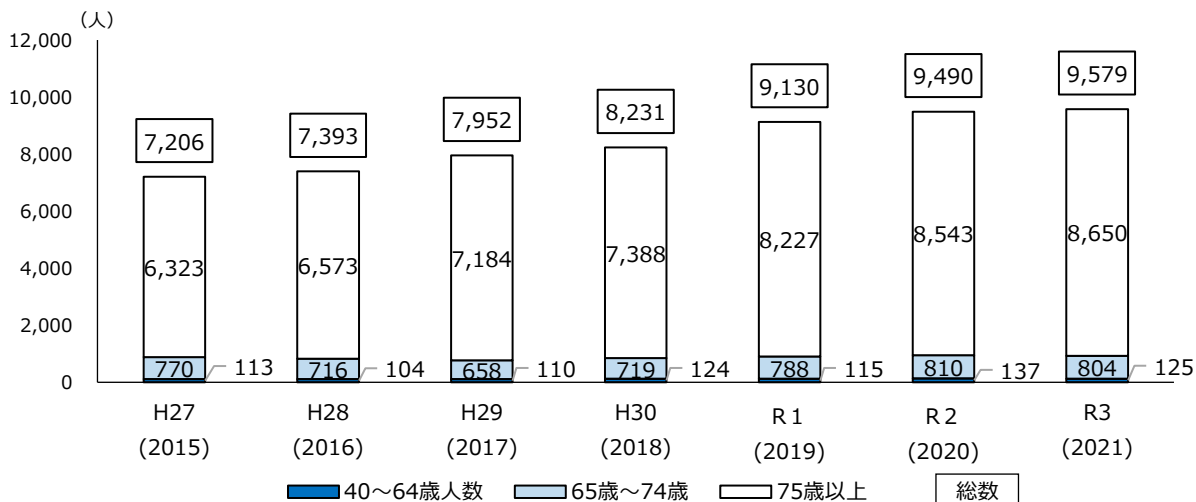


資料：介護保険状況報告（各年 11 月月報【9 月利用分】）

## （2）認知症の人の状況

要支援・要介護認定者データをもとに認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上の人数の推移をみると、増加傾向にあり、令和 3 年度では 9,579 人と平成 27 年度から 2,373 人増加しています。

【認知症の人の推移】



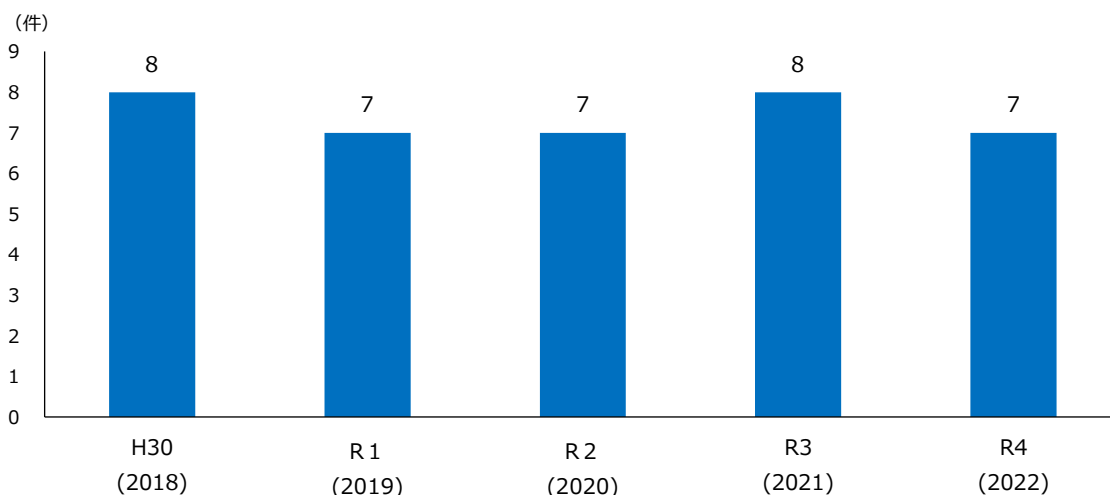
資料：要支援・要介護認定データ（各年度 3 月末現在）

### (3) 権利擁護に関する取組

#### ① 成年後見審判（法定後見）の市長申立て

成年後見審判（法定後見）の市長申立て件数は、各年度7～8件となっています。

【成年後見審判（法定後見）の市長申立て件数の推移】

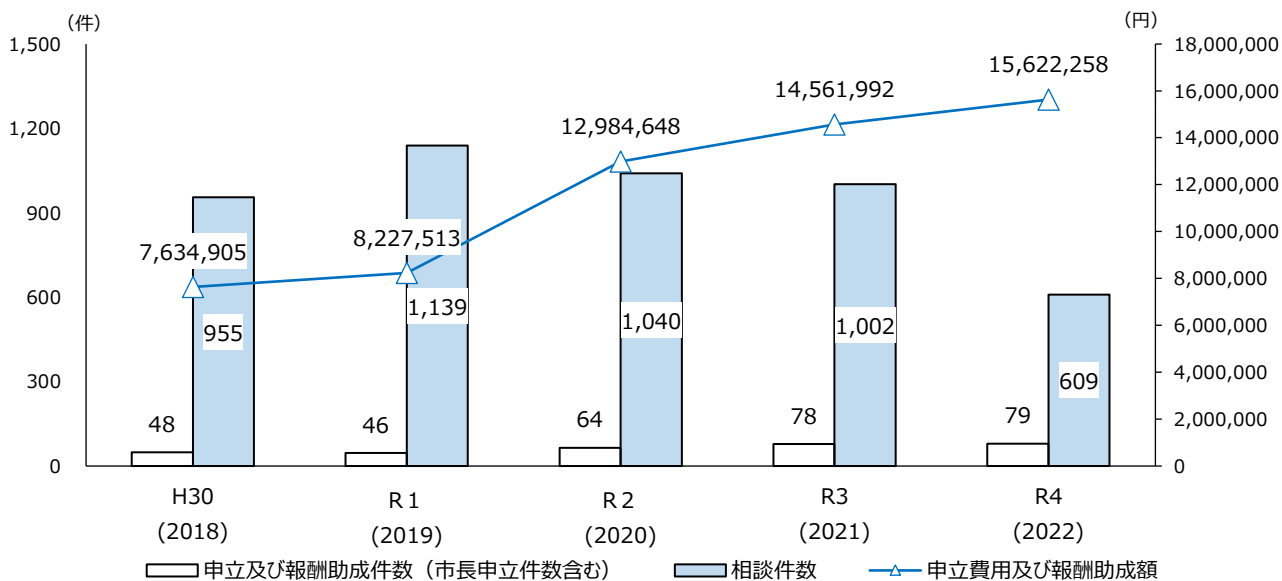


資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

#### ② 成年後見制度利用支援事業

成年後見制度利用支援事業の利用状況をみると、申立及び報酬助成件数と申立費用及び報酬助成額は年々増加しています。相談件数は2019年以降減少傾向にあり、2022年で609件となっています。

【成年後見制度利用支援事業の利用状況】

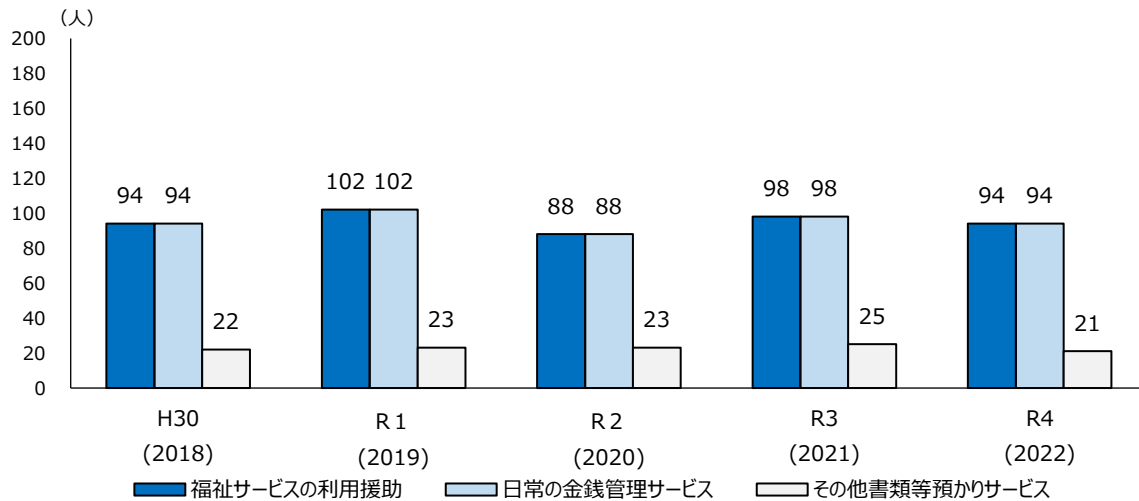


資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

③日常生活自立支援事業（社会福祉法人吹田市社会福祉協議会）

日常生活自立支援事業の利用状況をみると、福祉サービスの利用援助・日常の金銭管理サービス・その他書類等預かりサービスともに横ばいの状況です。

【日常生活自立支援事業の利用状況】

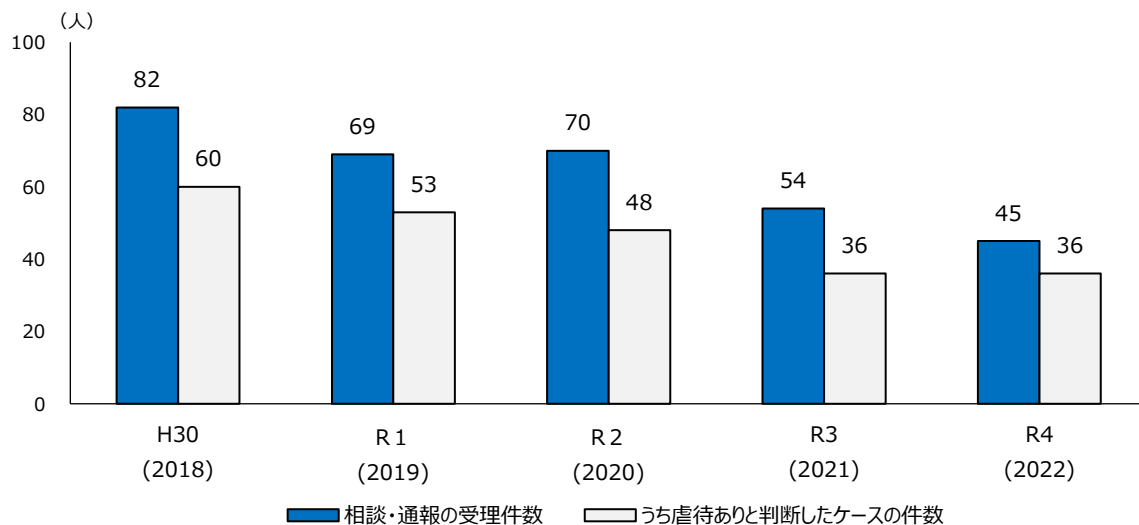


資料：吹田市福祉部福祉総務室（各年度末日現在）

④高齢者虐待の相談・通報

高齢者虐待の相談通報の状況をみると、相談・通報の受理件数及び虐待ありと判断したケースとも減少傾向にあります。

【高齢者虐待の相談・通報の受理件数】

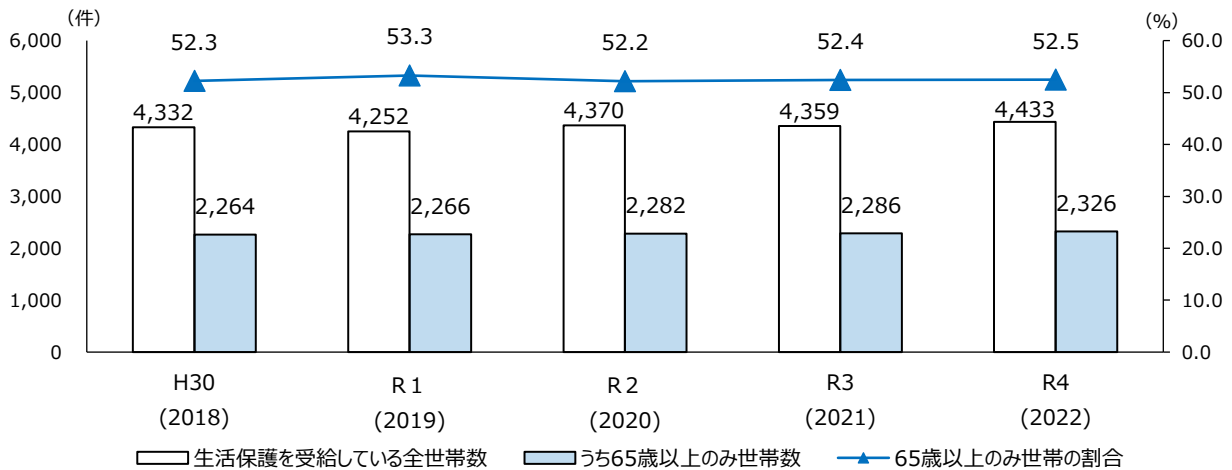


資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

⑤生活保護世帯

生活保護世帯は各年で増減しており、2022 年度で 4,433 世帯となっています。  
うち 65 歳以上は微増の傾向にあり、2022 年で 2,326 世帯と、全体の 52.5%を占めています。

【生活保護世帯の推移】

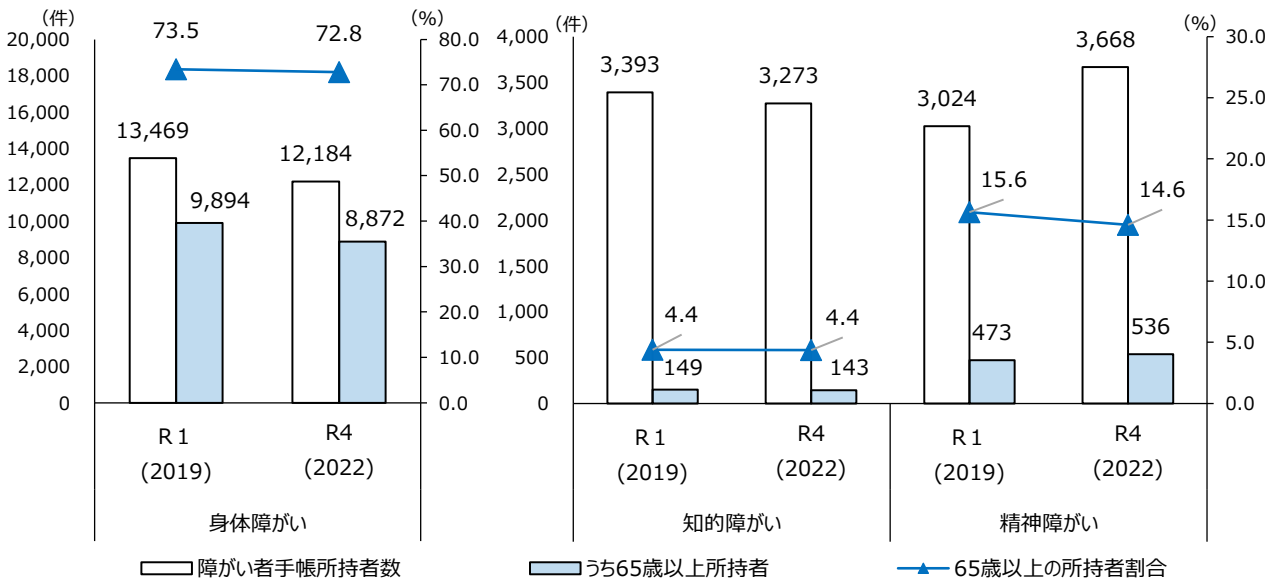


資料：吹田市福祉部生活福祉室（各年度末日現在）

⑥障がい者手帳所持者

65 歳以上の障がい者手帳所持者は、2022 年度で身体障がい者手帳所持者は 8,872 で全体の 72.8%を占め、療育手帳所持者（知的障がい）は 143 人で全体の 4.4%、精神障がい者保健福祉手帳は 536 人で全体の 14.6%を占めています。

【障がい者手帳所持者数】



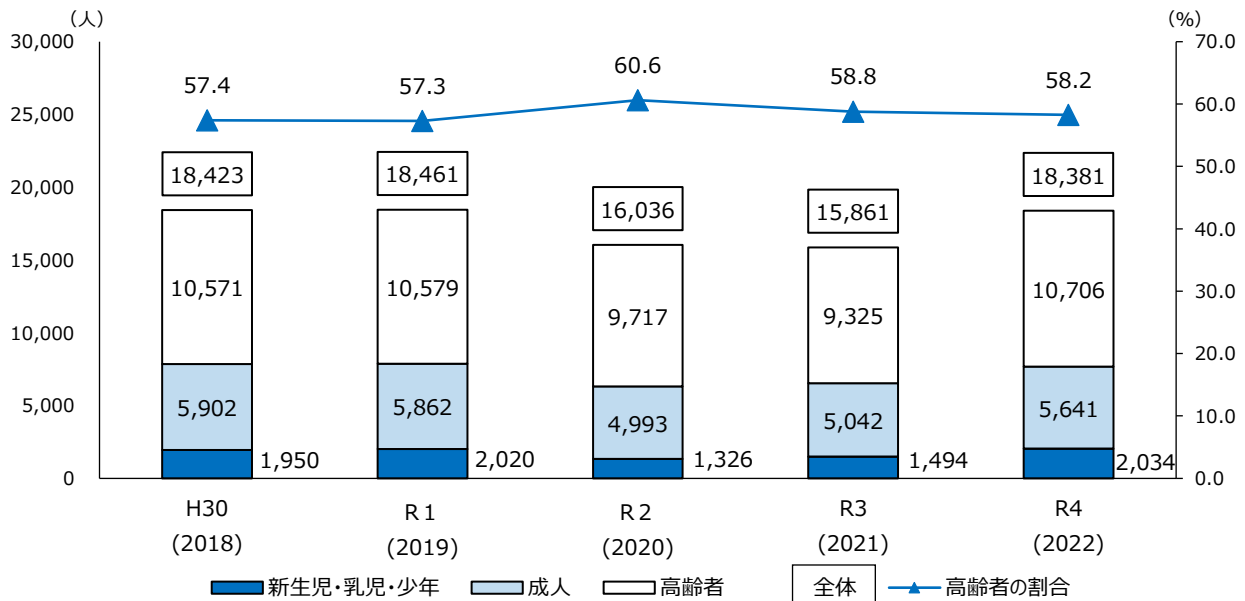
資料：吹田市福祉部障がい福祉室（各年度末日現在）

⑦救急搬送

救急搬送人数は、2020年・2021年は低いものの、そのほかの年は18,000人台となっています。搬送人数の半数以上が高齢者となっています。

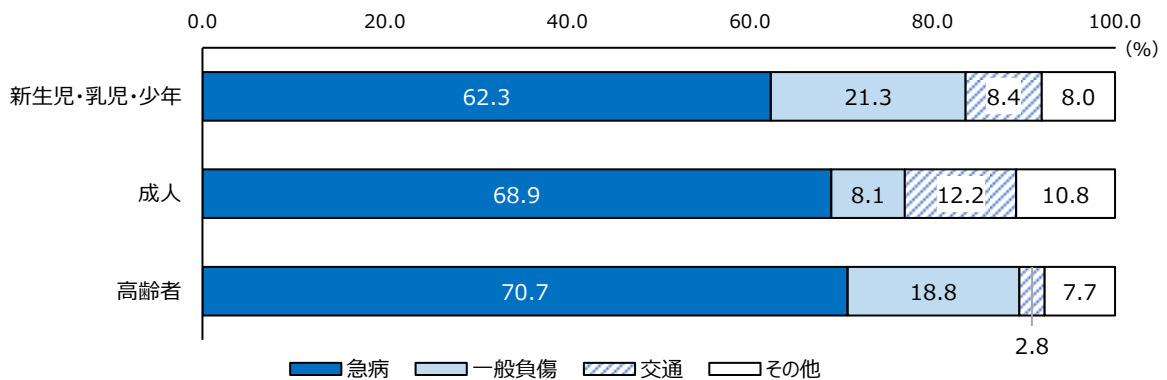
2022年の救急搬送人数を事故種別にみると、65歳以上は「急病」が全体の70.7%を占めています。

【年齢別救急搬送人数の推移】



資料：吹田市消防本部警防救急室（各年末日現在）

【年齢別事故種別搬送人数の構成比（2022年）】



資料：吹田市消防本部警防救急室（各年末日現在）

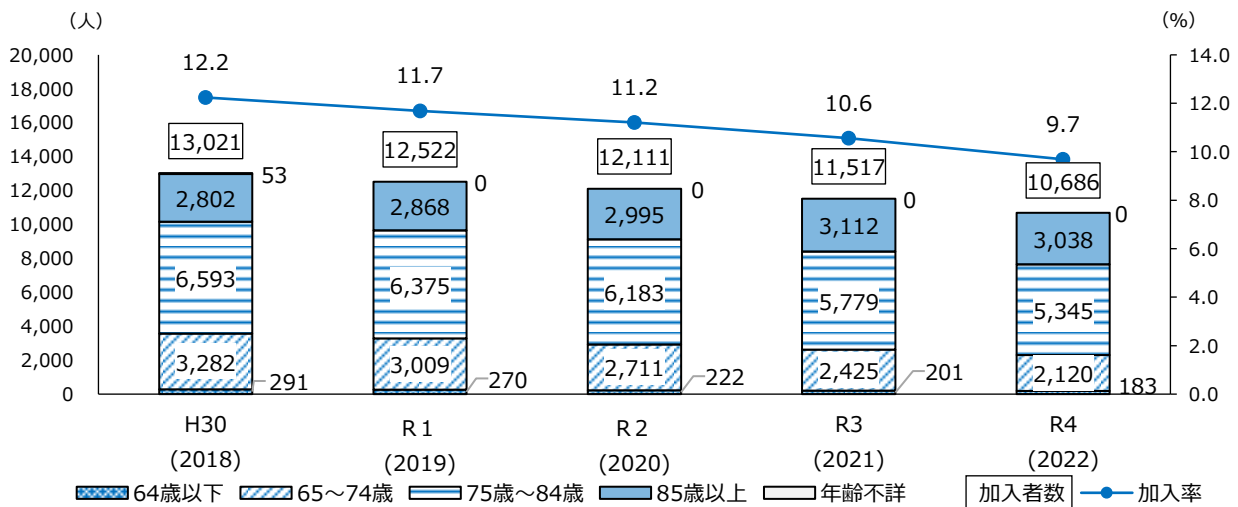


### 3. 地域で活動する方々

#### (1) 高齢クラブ

高齢クラブの加入者数及び加入率はともに減少傾向にあり、加入者は 2022 年度で 10,686 人と、2018 年度から 2,335 人減少しています。また、加入率は 2022 年度で 9.7% と、2018 年度から 2.5 ポイント減少しています。

【高齢クラブの加入状況】

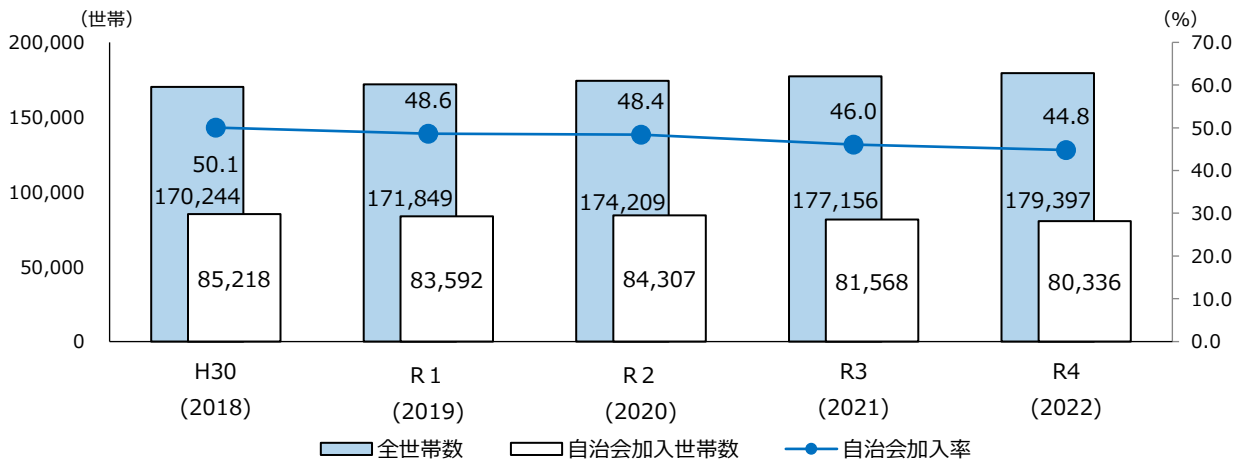


資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

#### (2) 自治会（全世帯）

吹田市全世帯における自治会の加入率は減少傾向にあり、2022 年度では 44.8% と、2018 年度から 5.3 ポイント減少しています。

【自治会の加入状況】



資料：吹田市市民部市民自治推進室（各年度4月1日現在）

### (3) 地区福祉委員会

地区福祉委員会の活動状況について、2020年度は新型コロナウイルス蔓延に伴う活動の自粛・制限に伴い、大きく減少します。それ以降はいきいきサロン・ふれあい昼食会ともに開催回数や参加者数は増加しています。

【地区福祉委員会の活動状況】

		H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
いきいき サロン	開催回数(回)	689	623	120	237	396
	参加者数(人)	14,769	13,923	1,317	3,549	5,405
	地区福祉委員の人数(人)	4,951	4,067	543	1,129	2,390
ふれあい 昼食会	開催回数(回)	260	229	142	260	335
	参加者数(人)	10,934	9,848	5,273	9,750	13,485
	地区福祉委員の人数(人)	3,842	3,396	1,056	1,562	2,078

資料：吹田市福祉部福祉総務室（各年度末日現在）

### (4) 高齢者生きがい活動センター等

高齢者生きがい活動センターの利用者について、2020年度は新型コロナウイルス蔓延に伴う活動の自粛・制限に伴い、大きく減少します。それ以降は高齢者生きがい活動センター等の利用者は増加しています。

【高齢者生きがい活動センター等の利用状況】

	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
高齢者生きがい活動センター利用者数(人)	50,696	46,362	18,472	27,555	46,566
高齢者いこいの間利用者数(人)	88,390	80,997	3,234	1,604	36,882
高齢者いこいの家利用者数(人)	9,678	8,649	4,163	5,288	10,188

資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

## (5) 生涯学習・スポーツ活動等

生涯学習・スポーツ活動等の参加者数（65歳未満も含む）について、2020年度は新型コロナウイルス蔓延に伴う活動の自粛・制限に伴い、大きく減少しますが、その後は市民スポーツ講座を除き、参加者数が年々増加しています。

【生涯学習・スポーツ活動等参加者数の推移（65歳未満も含む延べ人数）】

	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
高齢者スポーツ教室参加者数（人）	7,392	6,271	909	1,456	2,635
市民スポーツ講座「運動はええよ！」参加者数（人）	38	中止	38	33	25
健康づくり講座参加者数（人）	3,391	3,111	924	2,002	2,044
いきがい教室参加者数（人）	6,720	6,381	0	2,274	4,649

資料：健康づくり講座は吹田市地域教育部まなびの支援課（各年度末日現在）

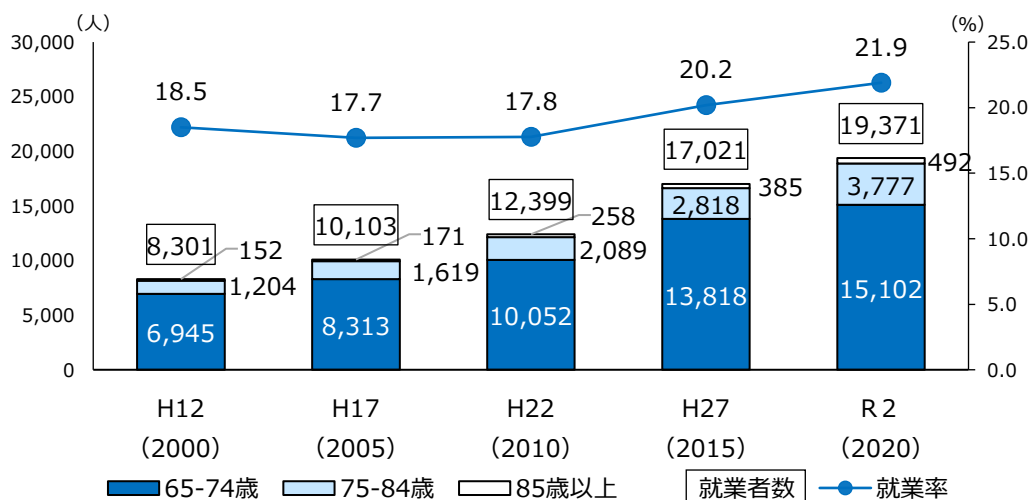
いきがい教室は吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

その他は吹田市年魅力部文化スポーツ推進室（各年度末日現在）

## (6) 就業状況

高齢者の就業者数は増加傾向にあり、2020年で19,371人と、2000年から11,070人増加しています。

【高齢者の就業状況】

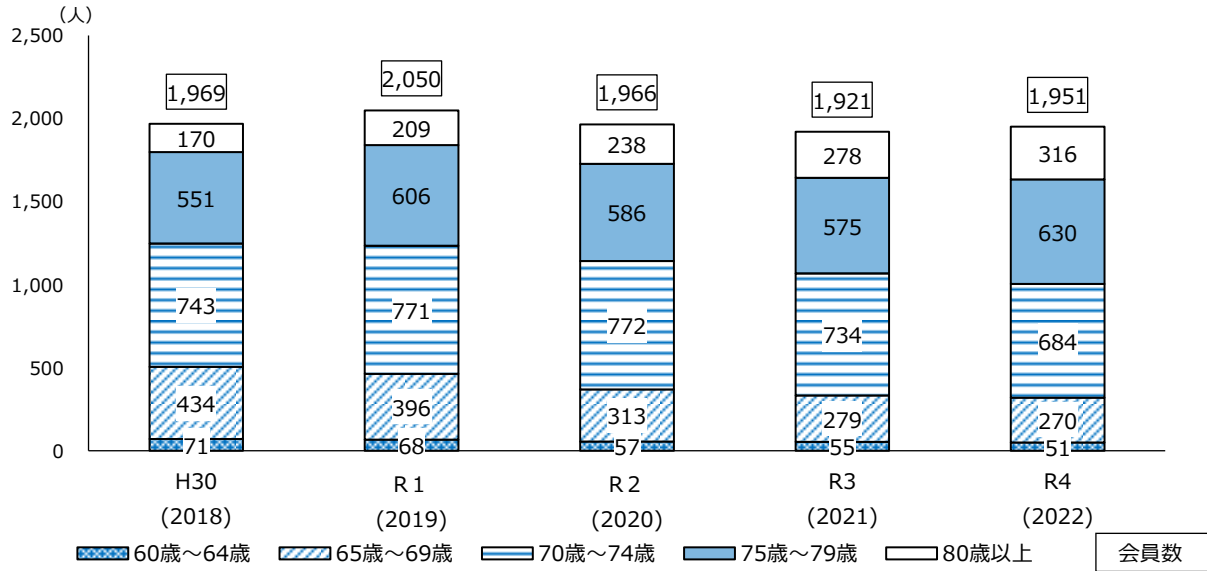


資料：各年国勢調査

## (7) 公益社団法人シルバー人材センター

公益社団法人シルバー人材センター会員数は各年で増減しており、2022 年で 1,951 人となっています。

【公益社団法人シルバー人材センター会員数の推移】



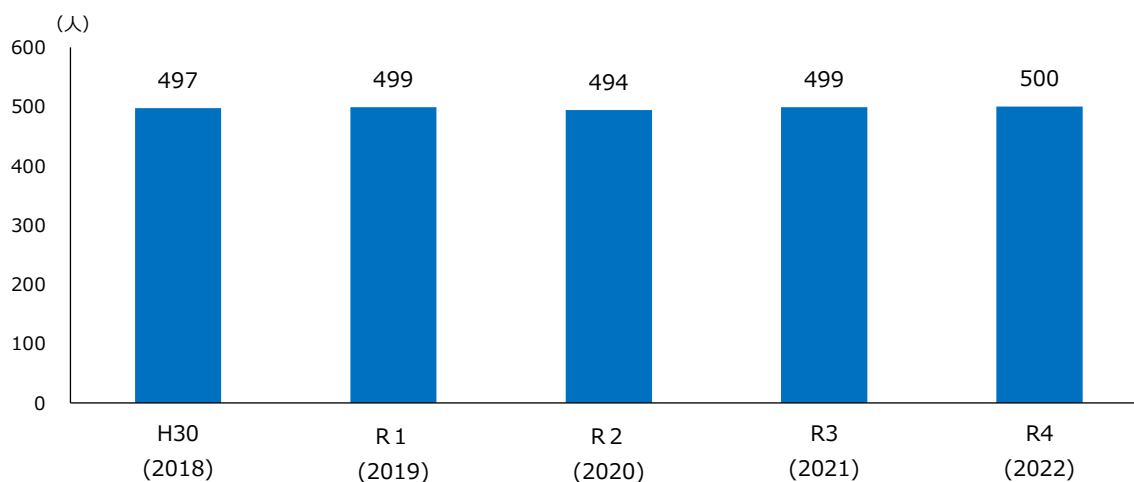
資料：各年国勢調査

## 4. 地域での支援体制

### (1) 民生委員・児童委員

民生委員・児童委員は 2022 年度で 500 人となっています。

【民生委員・児童委員の推移】

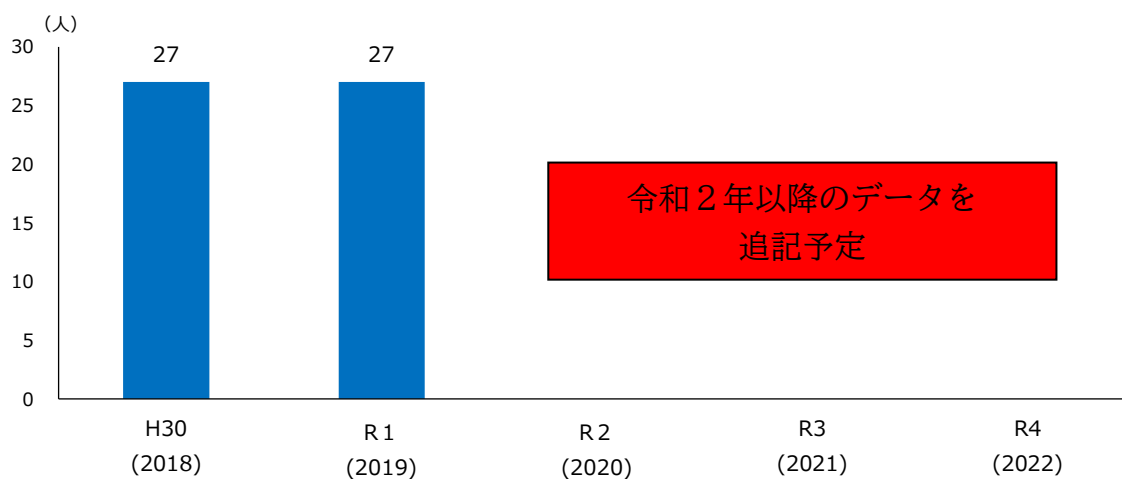


資料：吹田市福祉部福祉総務室（各年度末日現在）

### (2) 介護相談員

介護相談員は、

【介護相談員の登録者数の推移】

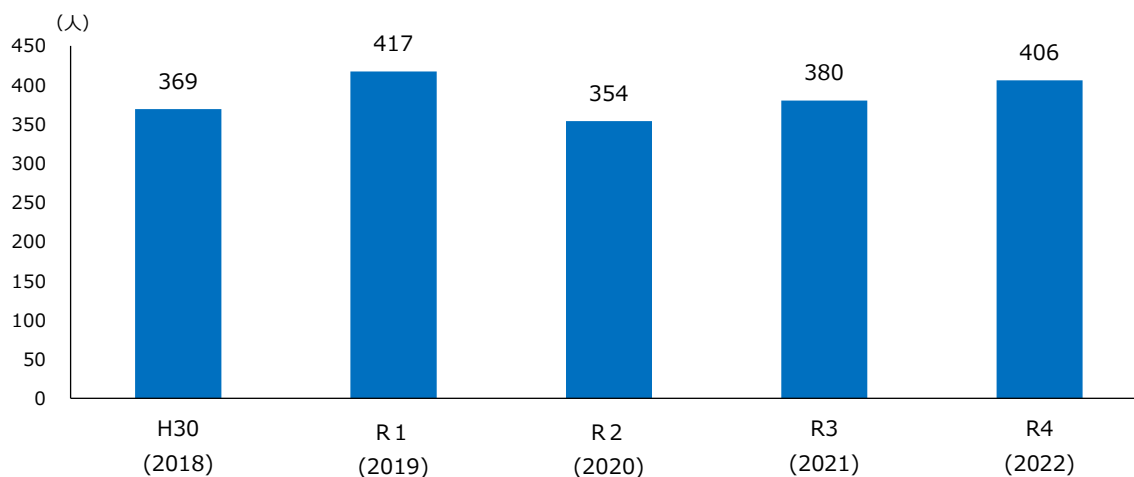


資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

### (3) 介護支援サポーター

介護支援サポーターは 2019 年から 2020 年にかけて一旦減少しますが、その後は増加傾向にあり、2022 年で 406 人となっています。

【介護支援サポーターの登録者の推移】

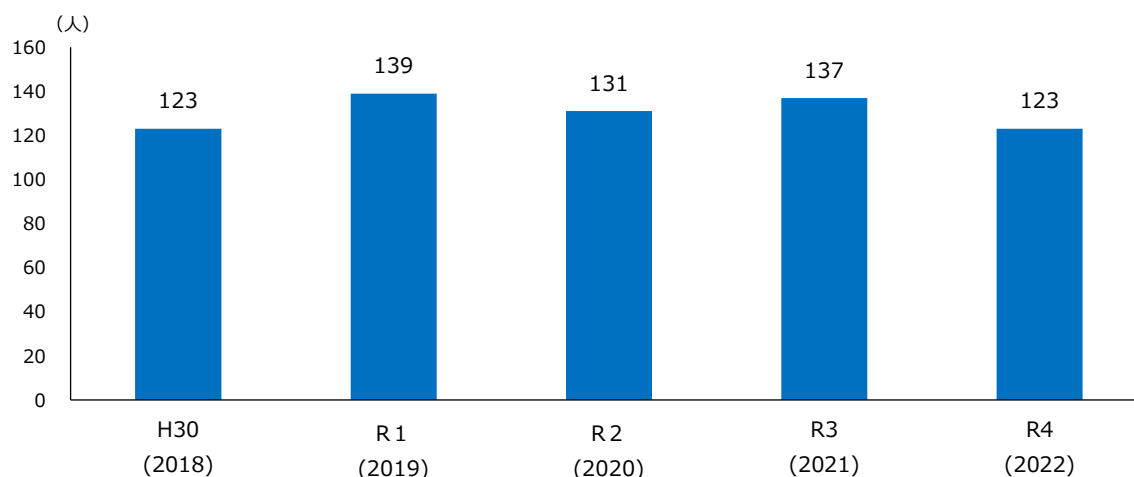


資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

### (4) 介護予防推進員

介護予防推進員は各年で増減しており、2022 年は 123 人となっています。

【介護予防推進員の活動者数の推移】



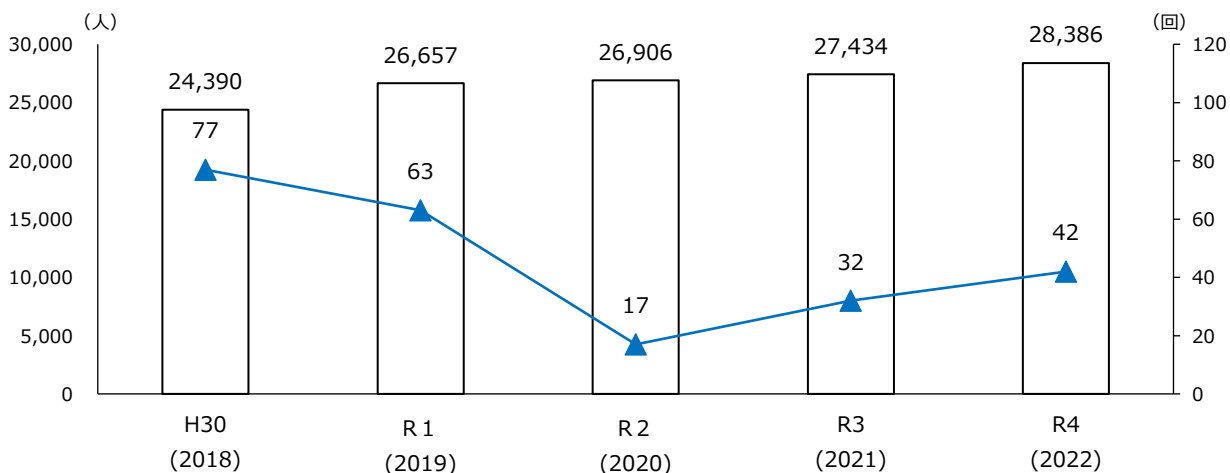
資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

## (5) 認知症サポーター

認知症サポーターは 2022 年で 28,386 人（累積）となっています。

認知症サポーター養成講座は、新型コロナウイルス蔓延の影響に伴い、2020 年で大きく減少しますが、現在は増加の傾向にあり、2022 年で 42 回となっています。

【認知症サポーター養成講座受講者数（累積）及び養成講座開催回数の推移】

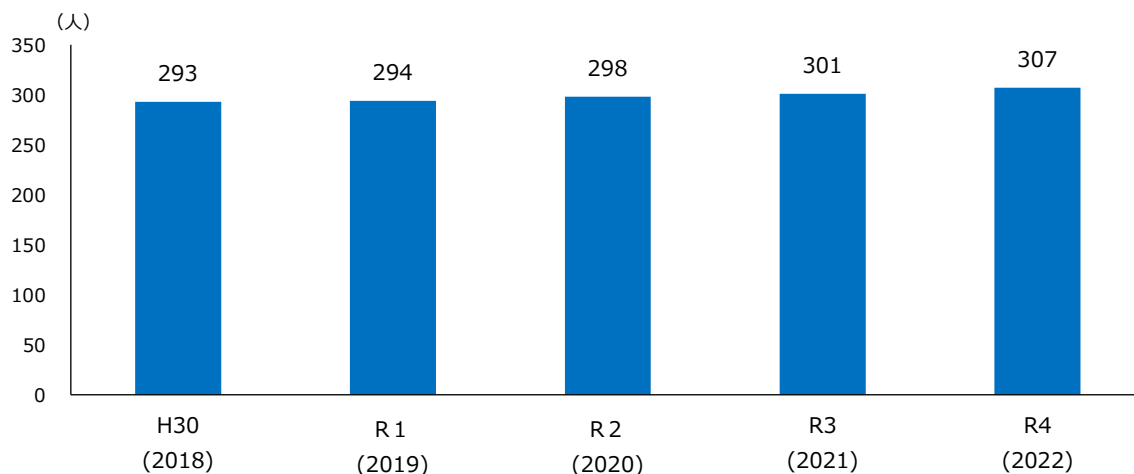


資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

## (6) 認知症キャラバン・メイト

認知症キャラバン・メイト登録者数は増加の傾向にあり、2022 年で 307 人となっています。

【認知症キャラバン・メイト登録者数の推移】

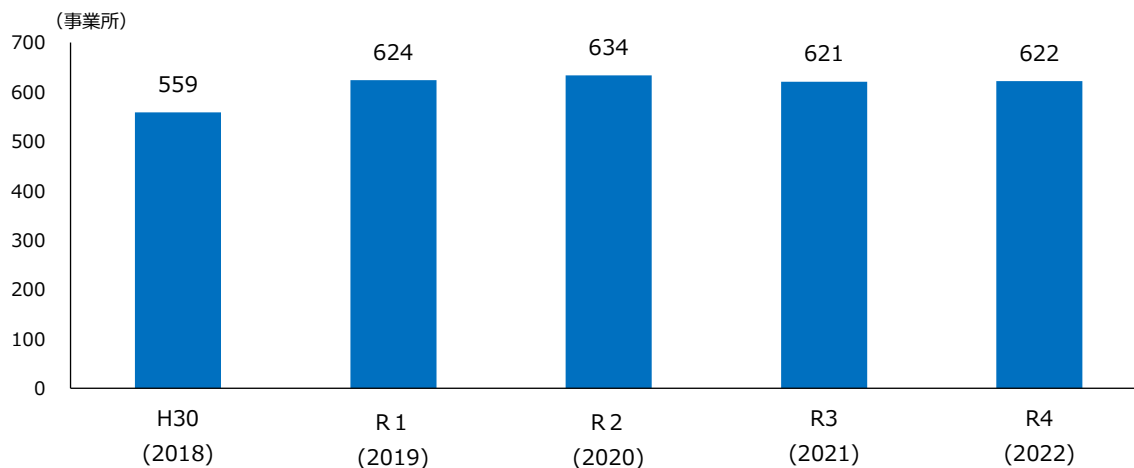


資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

## (7) 高齢者支援事業者との連携による見守り体制づくり協力事業者数

高齢者支援事業者との連携による見守り体制づくり協力事業者数は、2022 年度で 622 事業所と、2019 年度以降横ばいの状態です。

【高齢者支援事業者との連携による見守り体制づくり協力事業者数の推移】



資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）



## 5. アンケートからみる吹田市の現状

### (1) 調査の概要

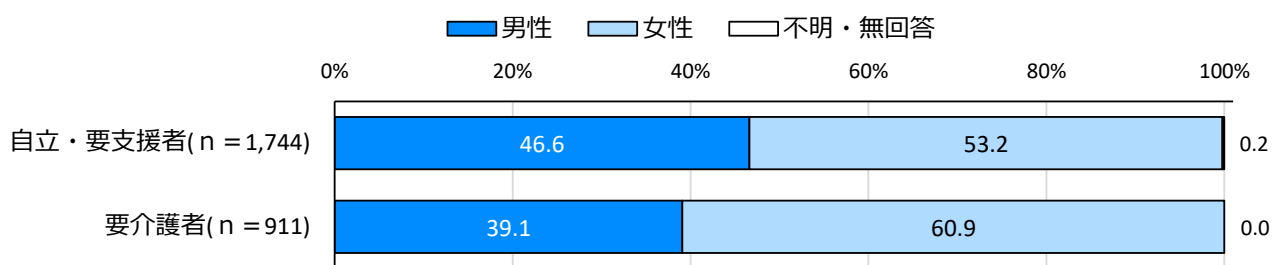
高齢者の日頃の生活や健康の状況、サービスの利用意向などを把握することを目的として、令和5年（2023年）2月1日から令和5年（2023年）2月15日まで、郵送で行いました。

高齢者調査					
対象者	65歳以上（要介護1～5を除く）の市民				
発送数	3,000件	有効回収数	1,744件	有効回収率	58.1%

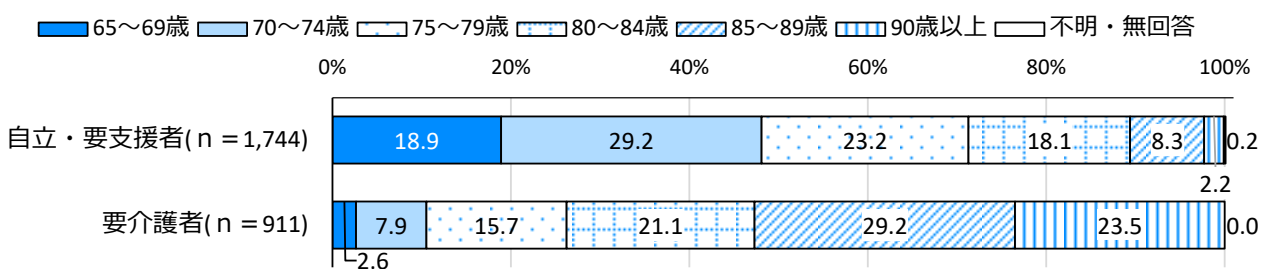
要介護認定者調査					
対象者	要介護1～5の認定を受けている市民				
発送数	2,000件	有効回収数	911件	有効回収率	45.6%

### (2) 回答者の属性

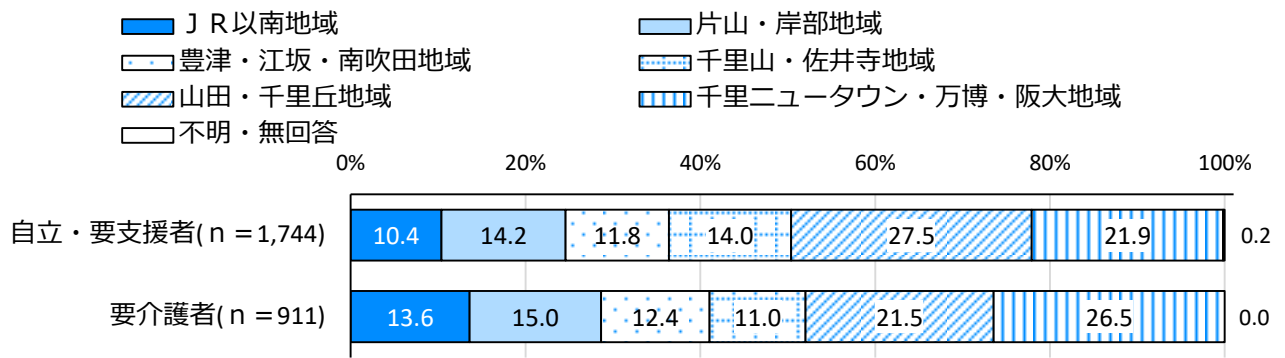
#### ①性別



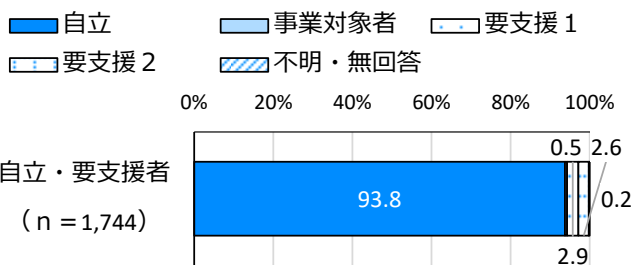
#### ②年齢



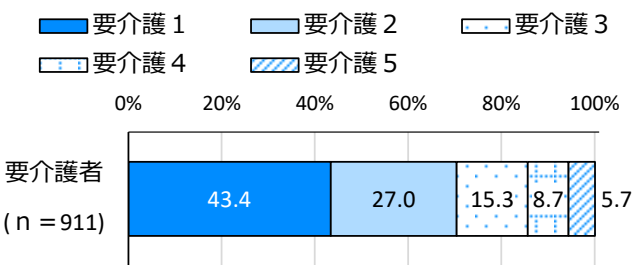
③お住まいの地域（日常生活圏域）



④認定該当状況（高齢者調査）



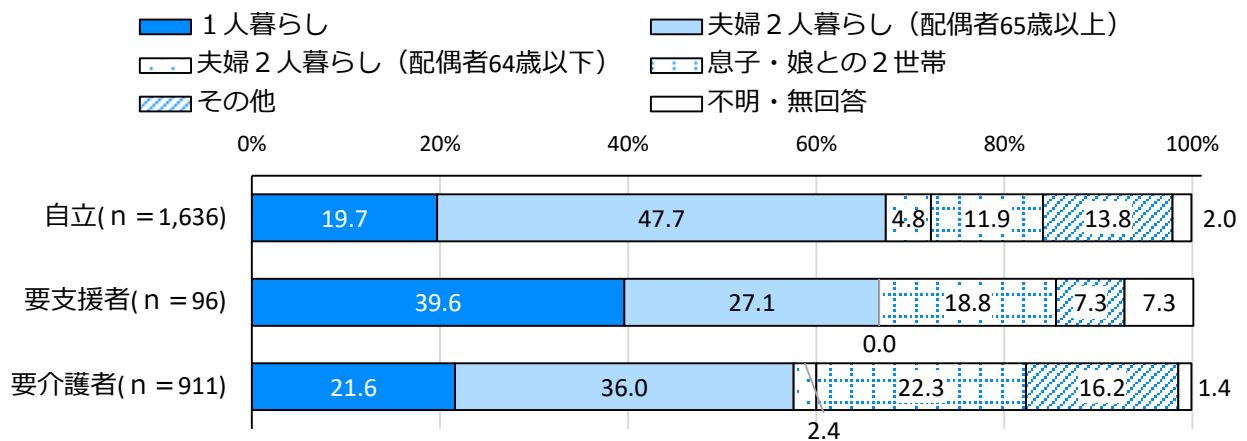
⑤要介護度（要介護認定者調査）



### (3) 世帯、暮らしの状況

- 世帯状況は、自立の人・要介護者は「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」、要支援者は「1人暮らし」が最も多い。地域別の高齢者のみ世帯は千里ニュータウン・万博・阪大地域が最も多い。
- 経済状況は、介護状態が重くなるにつれて「苦しい」が多い。

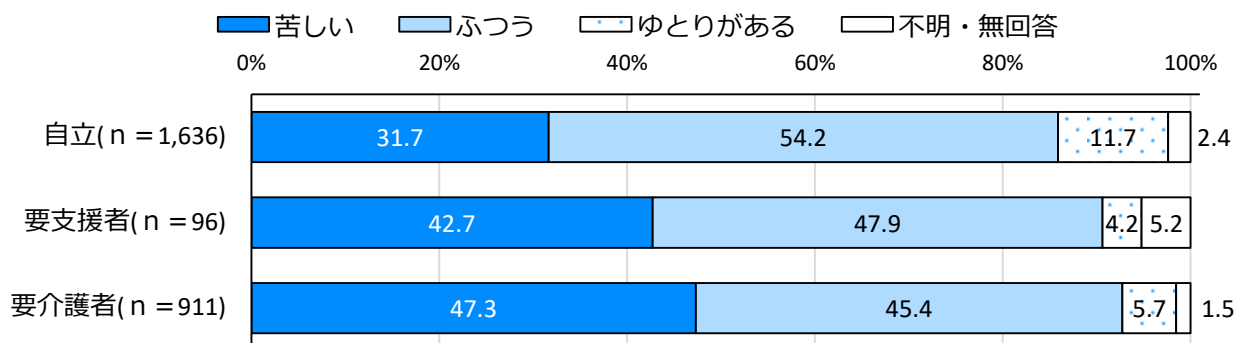
#### ①世帯状況（単数回答）



#### 地域別高齢者のみ世帯【1人暮らし・夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）の計】

全体	J R以南	片山・岸部	豊津・江坂・南吹田	千里山・佐井寺	山田・千里丘	千里NT・万博・阪大
66.3%	66.0%	63.4%	62.3%	63.3%	64.7%	74.3%

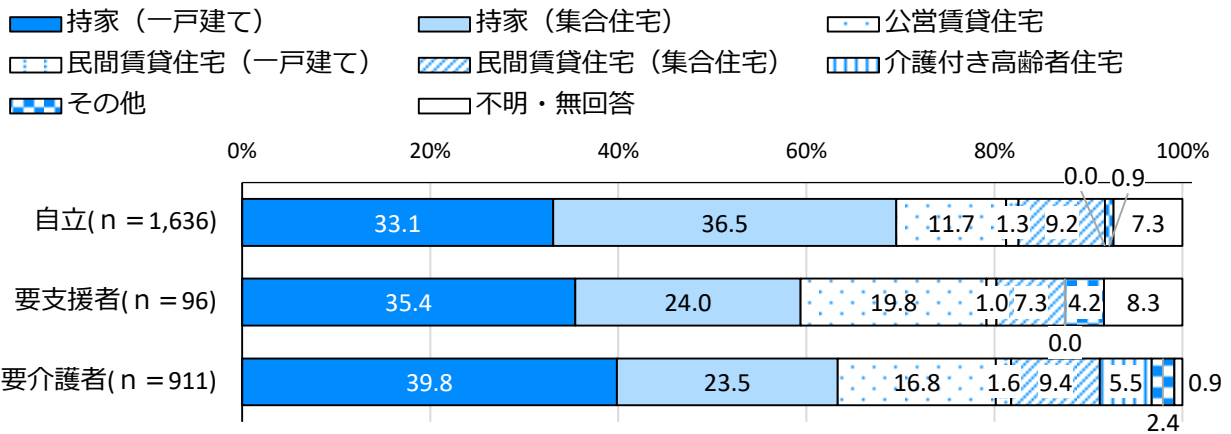
#### ②経済状況（単数回答）



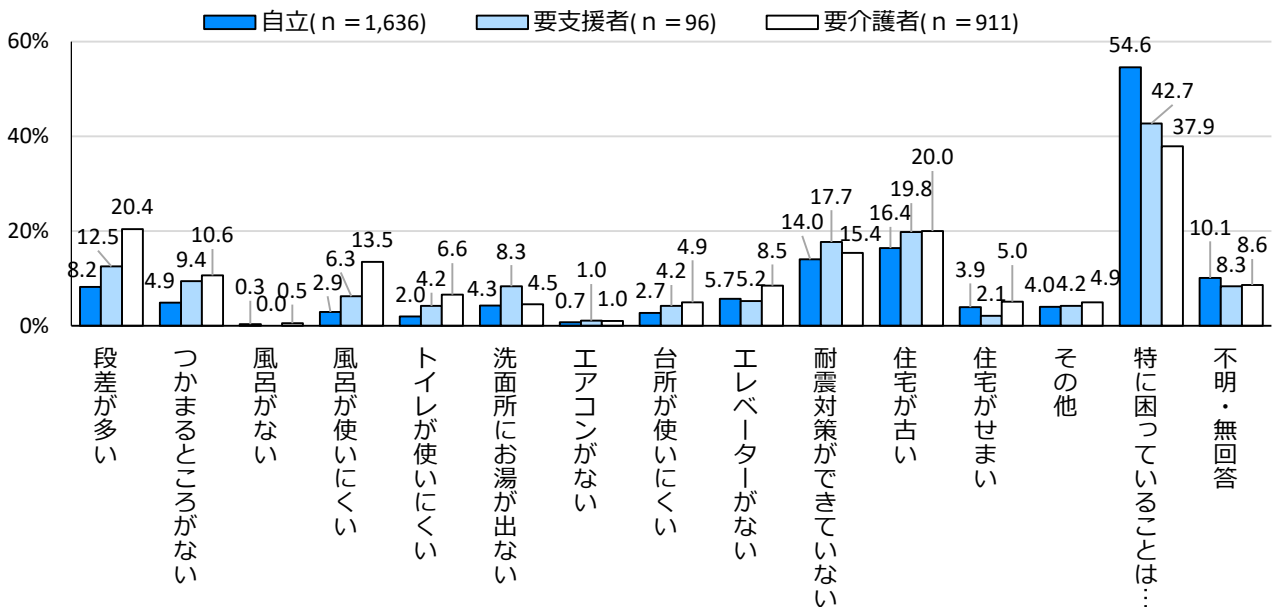
### (4) 住まいの状況

- 住まいの形態は、自立の人は「持家（集合住宅）」、要支援者・要介護者は「持家（一戸建て）」が最も多い。
- 住宅の困りごとは、介護状態が重くなるにつれて「特に困っていることはない」が低くなる。「段差が多い」は、介護状態が重くなるにつれて回答が多くなり、要介護者は 20.4%。

#### ① 住まいの形態（単数回答）



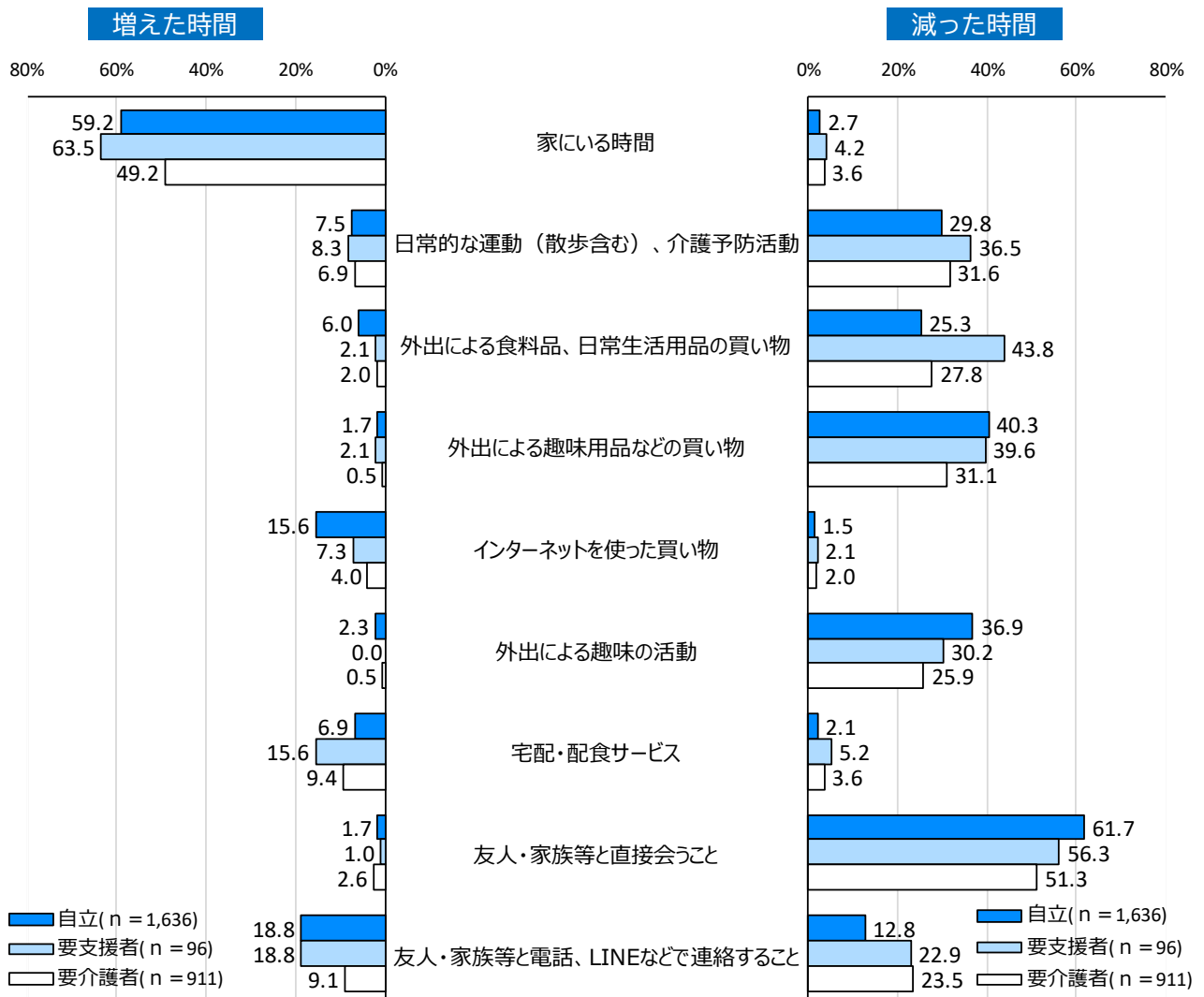
#### ② 住宅の困りごと（複数回答）



## (5) 新型コロナウイルス蔓延に伴う行動の変化

- 新型コロナウイルス蔓延に伴う行動の変化において「増えた時間」は、介護状態に関わらず「家にいる時間」が最も多く、要支援者は6割を超えている。
- 「減った時間」は、介護状態に関わらず「友人・家族等と直接会うこと」が最も多く、自立の人で6割を超えている。ほか、「外出による食料品、日常生活用品の買い物」は要支援者、「外出による趣味用品などの買い物」は自立の人で4割を超えている。

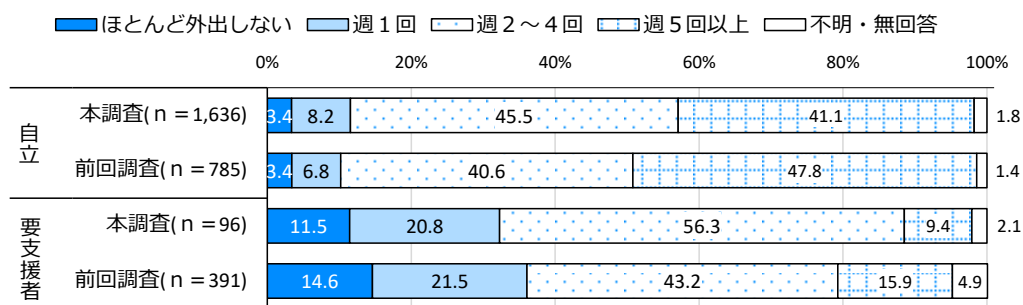
### ① 新型コロナウイルス蔓延に伴う活動・行動の変化（各項目単数回答）



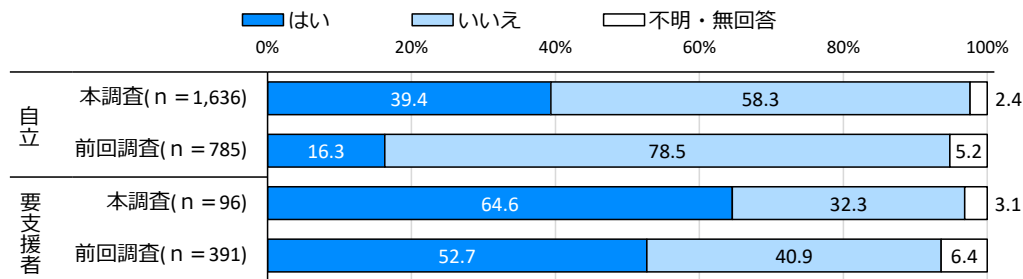
## (6) 外出の状況

- 週1回以上の外出状況を尋ねたところ、自立の人・要支援者ともに「週2～4回」が最も多い。前回調査と比較すると、自立の人・要支援者ともに「週5回以上」が減少し、「週2～4回」が増加。
- 外出を控えているか尋ねたところ、「はい」は自立の人で39.4%、要支援者で64.6%となっており、特に自立の人は前回調査から23.1ポイント増加。
- 自立の人に外出を控えている理由を尋ねたところ、「新型コロナウイルス感染症に感染しないため」が80.3%で最も多い。

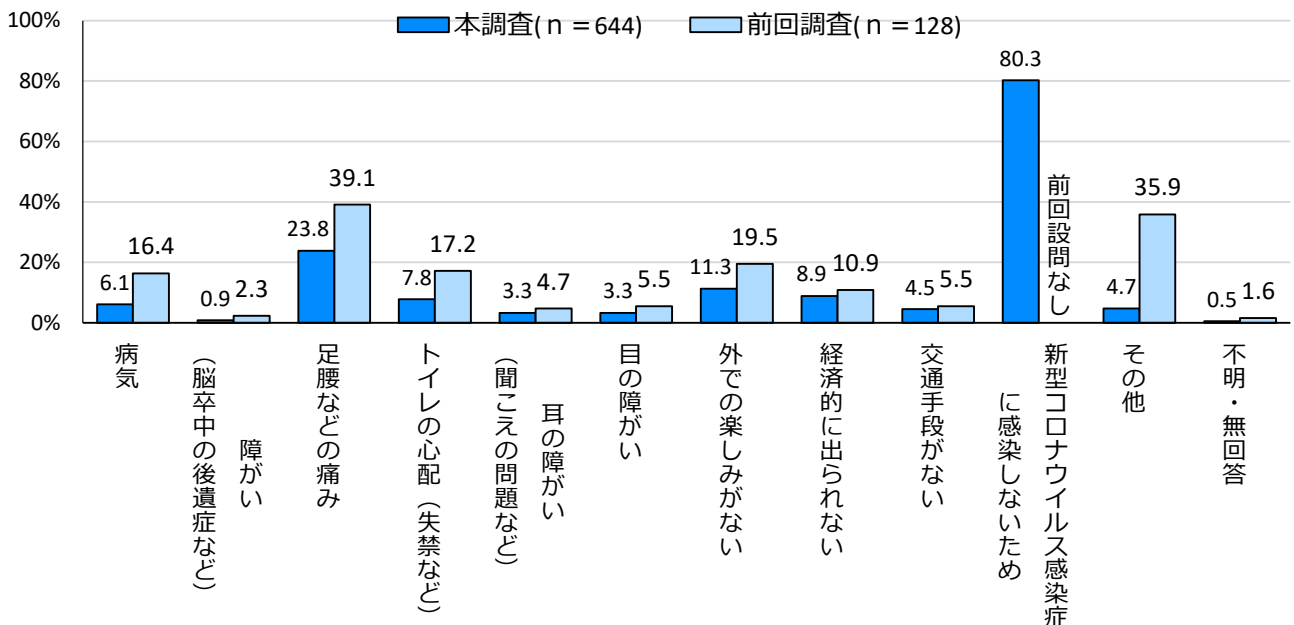
### ① 週1回以上の外出状況（単数回答）



### ② 外出を控えているか（単数回答）



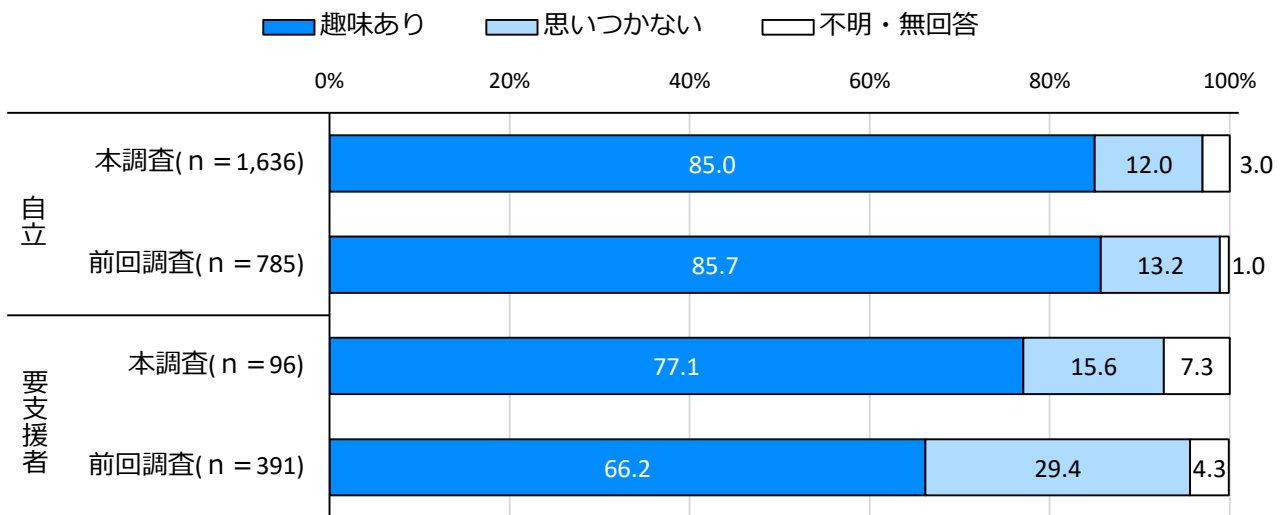
### ③ 外出を控えている理由（複数回答） ※自立の人のみ掲載



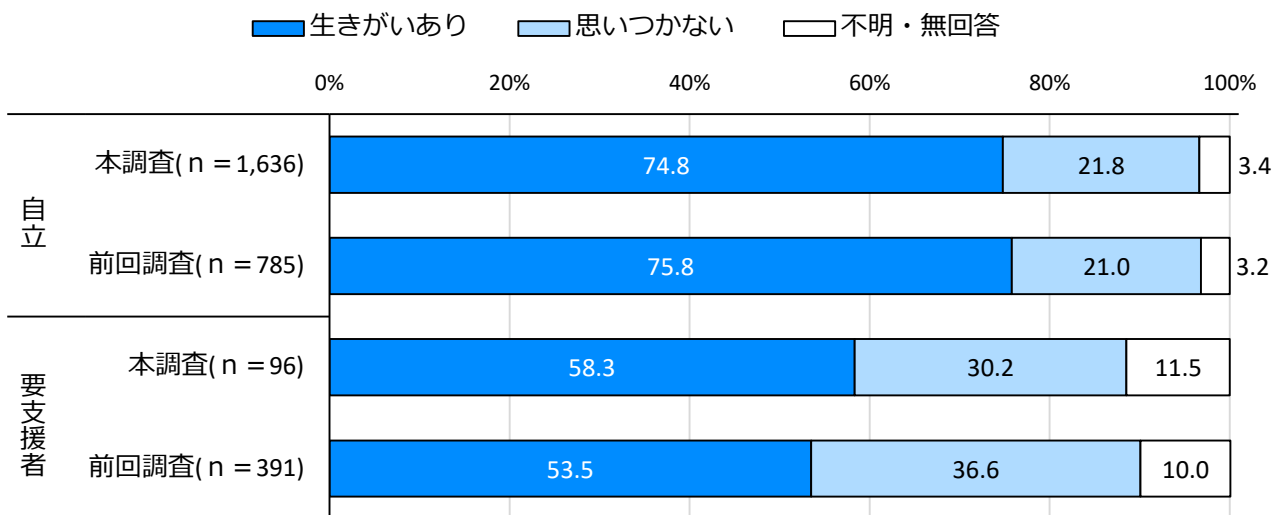
(7) 趣味・生きがい

- 趣味の有無を尋ねたところ、「趣味あり」は自立の人が85.0%、要支援者が77.1%で、要支援者は前回調査から10.9ポイント増加。
- 生きがいの有無を尋ねたところ、「生きがいあり」は自立の人が74.8%、要支援者が58.3%。

①趣味の有無（単数回答）



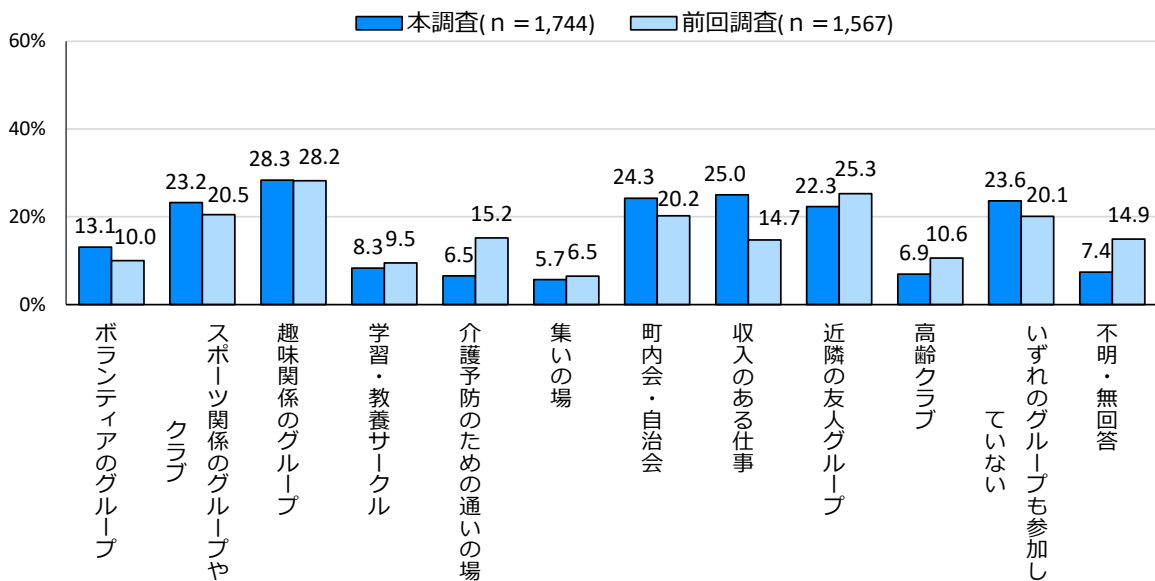
②生きがいの有無（単数回答）



## (8) 地域活動

- 参加している地域活動は「趣味関係のグループ」が最も多い。前回調査から「収入のある仕事」が10.3ポイント増加。
- 地域別になんらかのグループに参加している人は、自立の人は山田・千里丘、要支援者は千里ニュータウン・万博・阪大」が最も多い。
- いきいきした地域づくり活動に「参加者」としての参加意向は、自立の人・要支援者ともに「参加してもよい」が最も多い。要支援者の「参加してもよい」は前回調査から14.1ポイント増加。

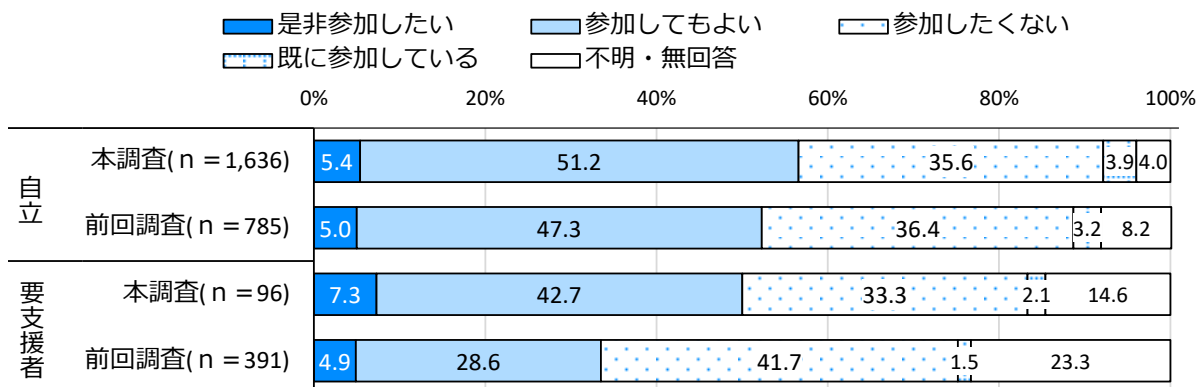
### ①参加している地域活動（複数回答）【高齢者調査】



### 地域別なんらかのグループに参加している人の割合

	全体	J R以南	片山・岸部	豊津・江坂・南吹田	千里山・佐井寺	山田・千里丘	千里 NT・万博・阪大
自立	69.7%	67.7%	66.1%	64.3%	70.9%	76.6%	66.3%
要支援	56.3%	57.1%	55.6%	50.0%	62.5%	44.0%	71.4%

### ②いきいきした地域づくり活動に「参加者」としての参加意向（単数回答）

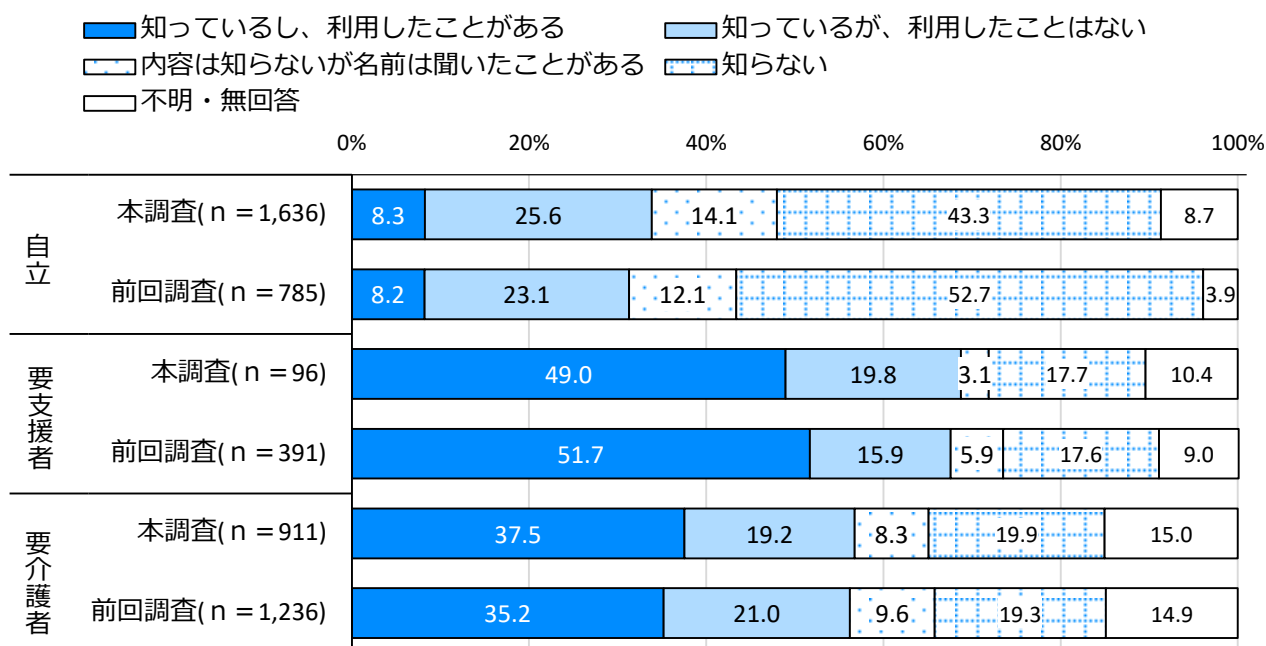




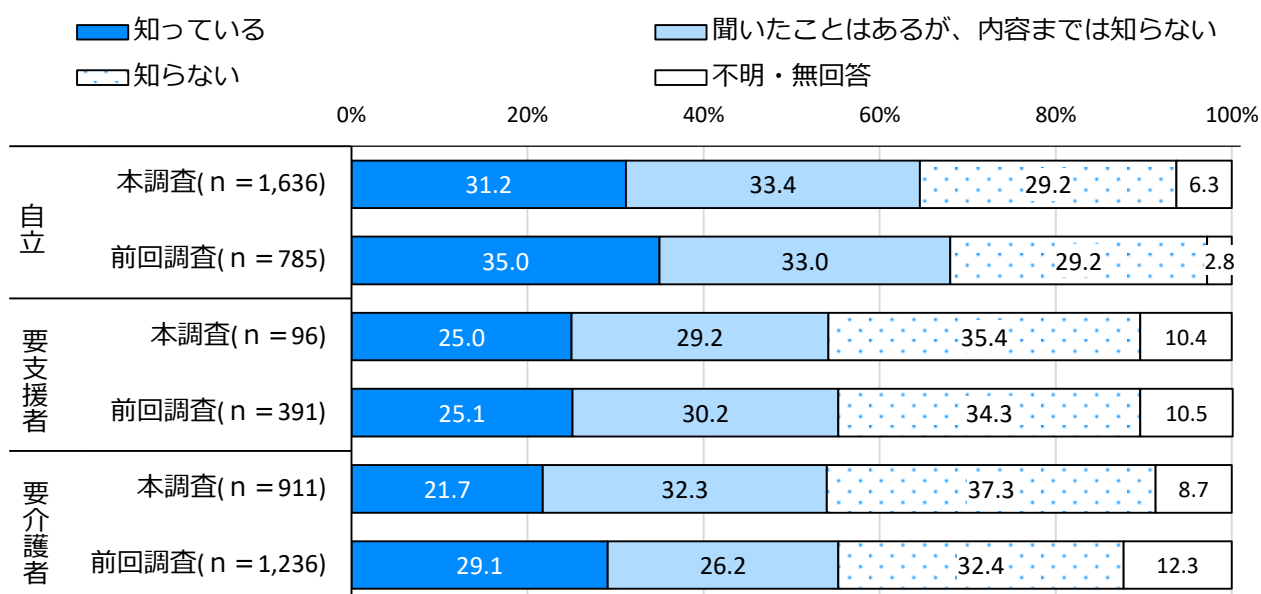
### (9) 地域包括支援センター・成年後見制度の認知度

- 地域包括支援センターの認知度について、「知っているし、利用したことがある」は自立の人で 8.3%、要支援者で 49.0%、要介護者で 37.5%と、要支援者・要介護者では最も多い回答。自立の人において「知らない」は前回調査から 9.4 ポイント減少。
- 成年後見制度について、「知っている」は自立の人で 31.2%、要支援者で 25.0%、要介護者で 21.7%。要介護者は前回調査から 7.4 ポイント減少。

#### ①地域包括支援センターの認知度（単数回答）



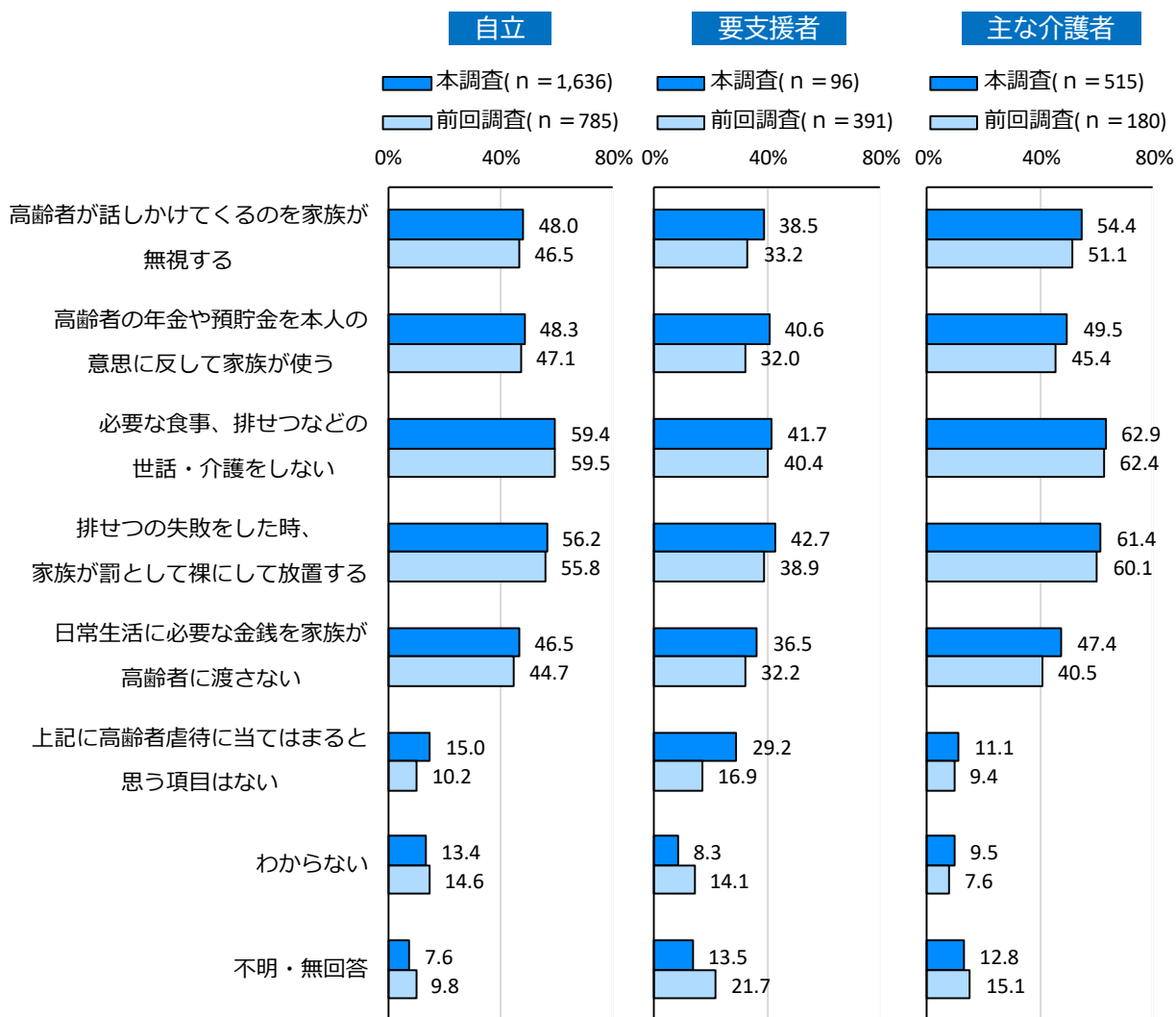
#### ②成年後見制度の認知度（単数回答）



## (10) 高齢者虐待

- 高齢者虐待にあてはまるものを尋ねたところ、自立の人は「必要な食事、排せつなどの世話・介護をしない」、要支援者は「排せつの失敗をした時、家族が罰として裸にして放置する」、主な介護者は「必要な食事、排せつなどの世話・介護をしない」が最も多い。
- 自立の人・要支援者・主な介護者ともに「上記に高齢者虐待にあてはまると思う項目はない」も回答が増えている。しかし、要支援者・主な介護者は高齢者虐待に該当する5項目ともに回答が増えている。

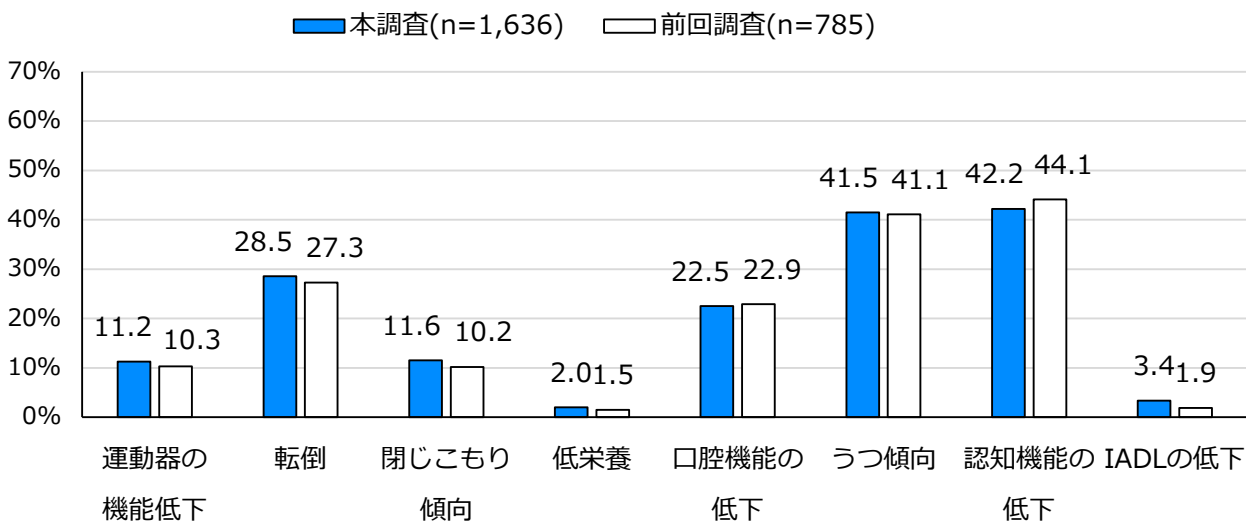
### ① 高齢者虐待に該当すると思うもの（複数回答）



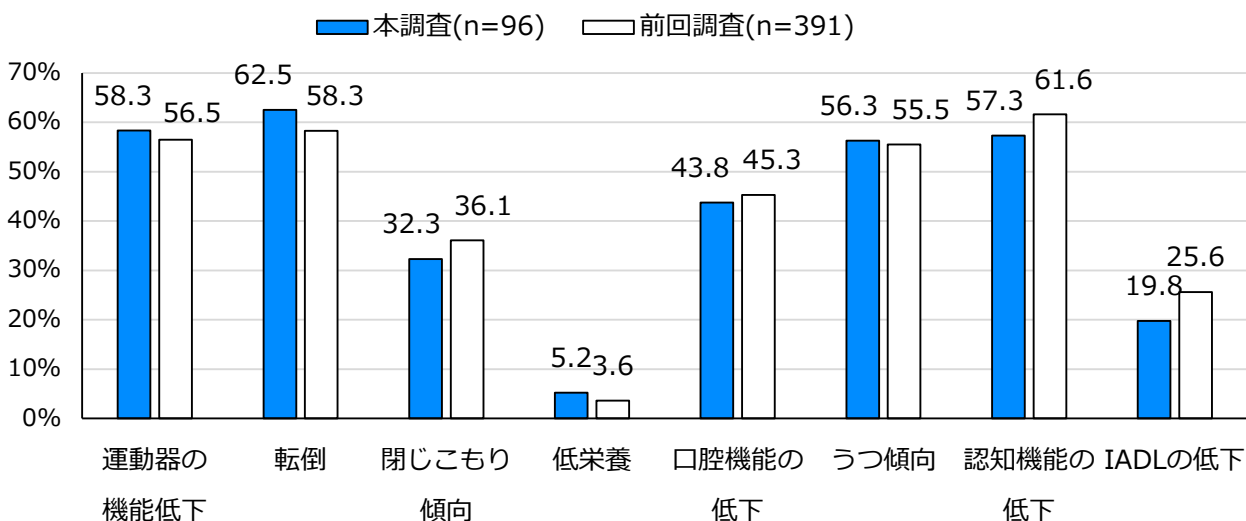
## (11) 身体機能等、リスク判定結果

- 身体機能や認知機能等のリスク判定を行った結果、「リスクあり」の人は自立の人で「認知機能の低下」が42.2%で最も多く、次いで「うつ傾向」が41.5%、「転倒」が28.5%となっており、前回調査とほぼ同じ結果。
- 要支援者のリスク判定結果は、「転倒」が62.5%で最も多く、次いで「運動器の機能低下」が58.3%、「認知機能の低下」が57.3%となっており、前回調査とほぼ同じ結果。

### ①自立の人のリスク判定結果（リスクありの人）



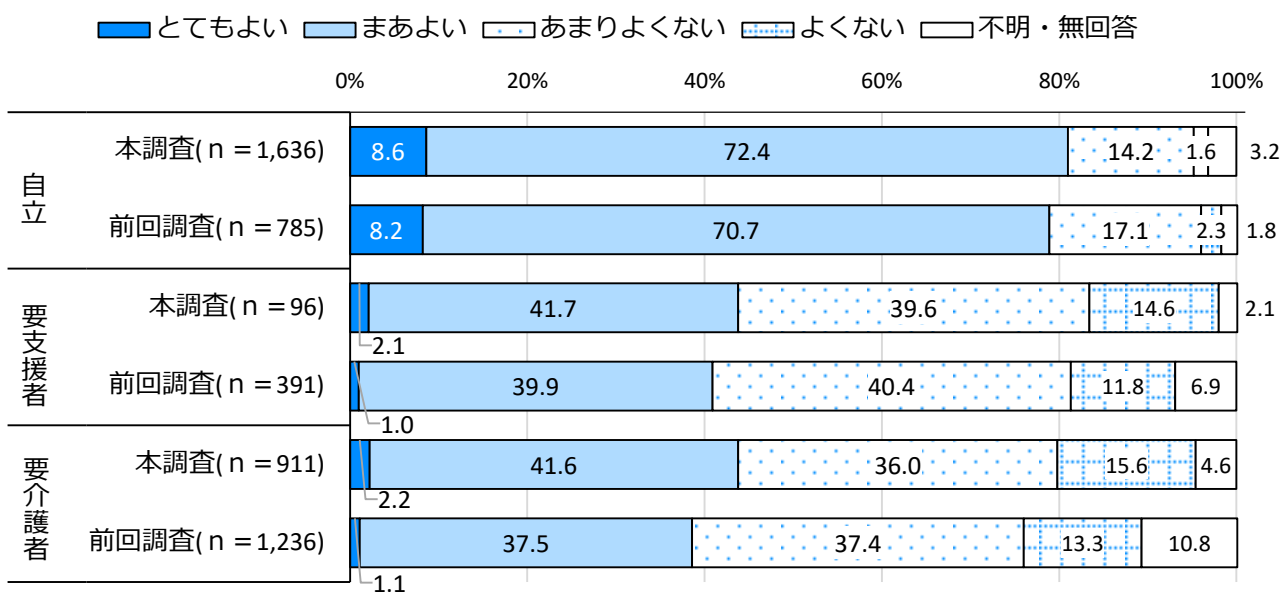
### ②要支援者のリスク判定結果（リスクありの人）



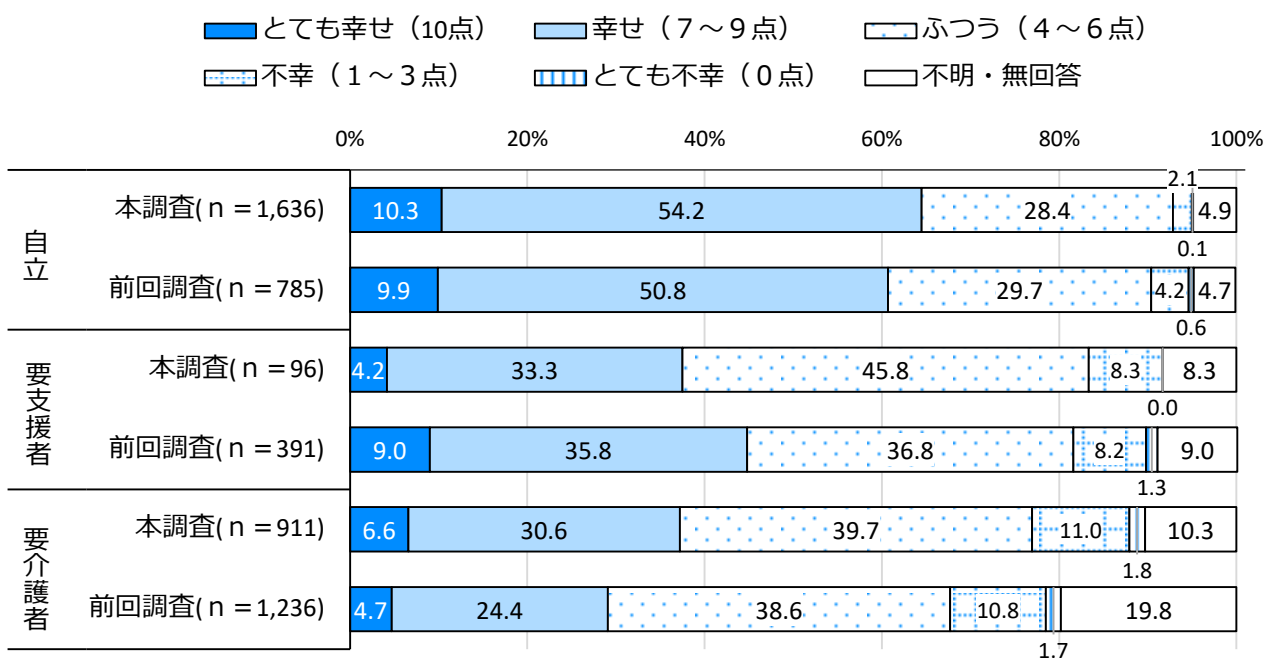
## (12) 健康・介護予防

- 主観的健康観は、自立の人・要支援者・要介護者ともに「まあよい」が最も多くなっているが、要支援者・要介護者は自立の人より 30 ポイント以上低い。
- 幸福感は、自立の人は「幸せ」、要支援者・要介護者は「ふつう」が最も多い。自立の人・要介護者は「とても幸せ」「幸せ」が前回調査から若干増えているのに対し、要支援者は減り、「ふつう」が増えている。

### ①主観的健康観（単数回答）

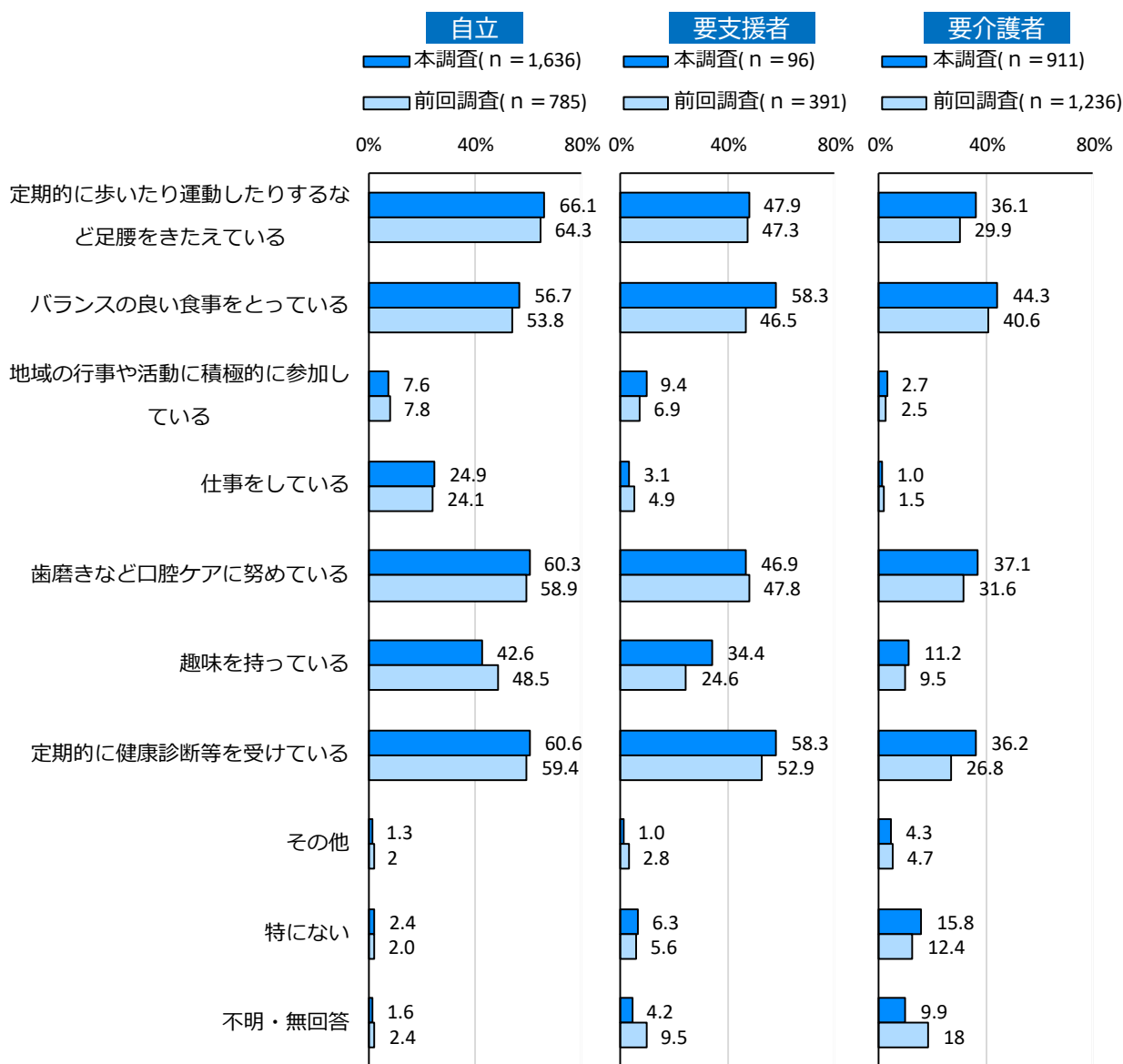


### ②幸福感（単数回答）



- 健康の保持・増進や介護予防で心がけていることは、自立の人は「定期的に歩いたり運動したりするなど足腰をきたえている」、要支援者は「バランスの良い食事をとっている」と「定期的に健康診断等を受けている」、要介護者は「バランスの良い食事をとっている」が最も多い。
- 前回調査と比較すると、要支援者で「バランスの良い食事をとっている」は前回調査から 10 ポイント以上増加。

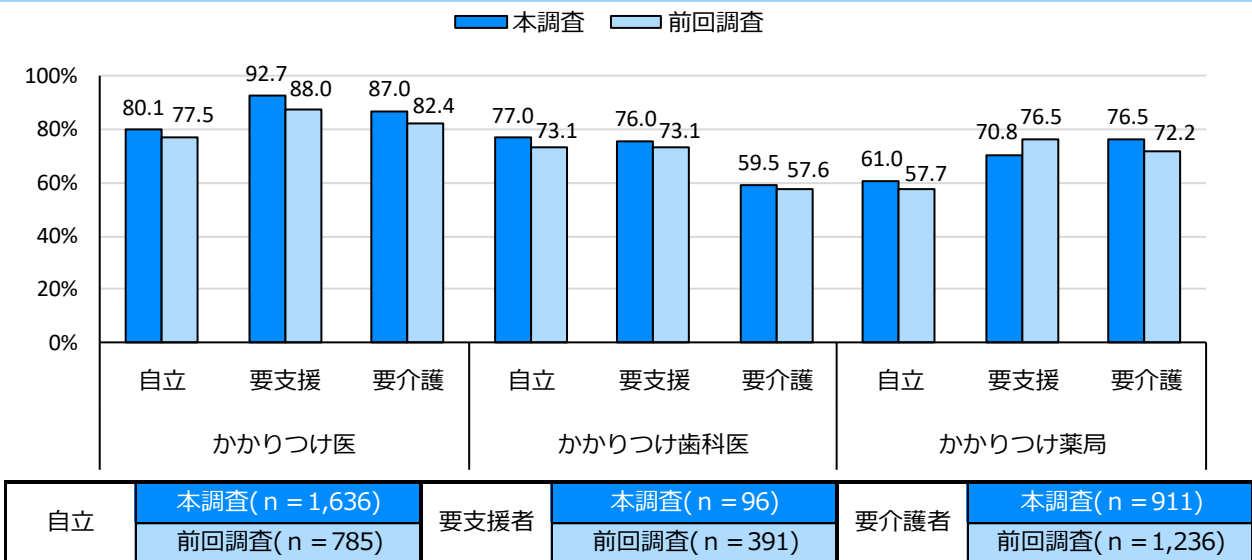
③健康の保持・増進や介護予防のために心がけていること（複数回答）



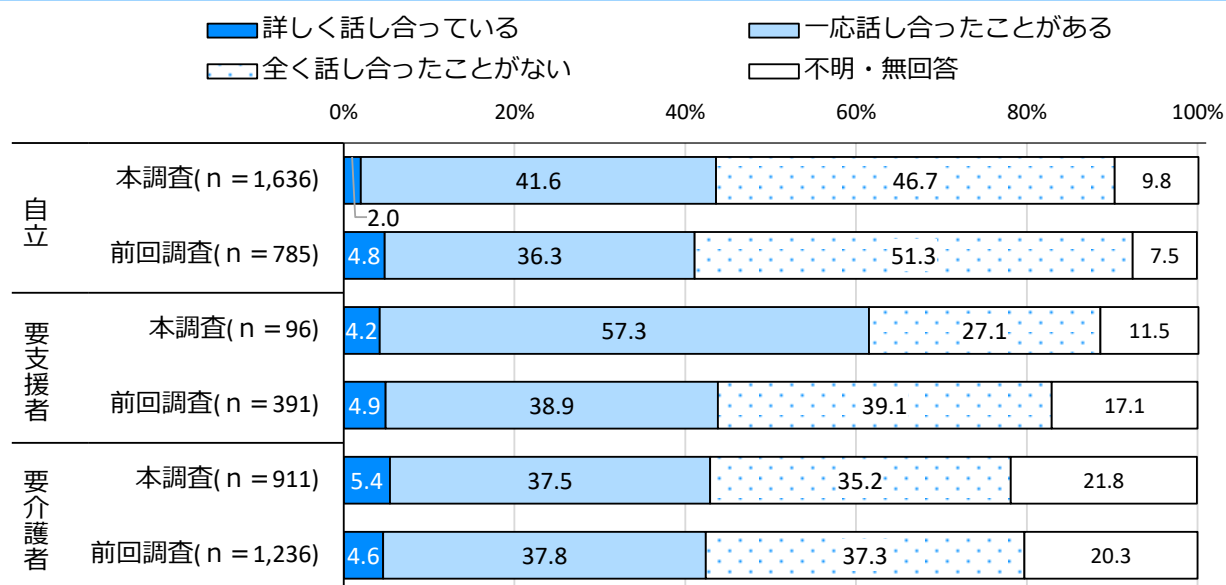
### (13) 在宅医療

- かかりつけ医の有無について、「いる」は自立の人で 80.1%、要支援者で 92.7%、要介護者で 87.0%。介護状態に関わらず前回調査から「いる」は増加。
- かかりつけ歯科医の有無について、「いる」は自立の人で 77.0%、要支援者で 76.0%、要介護者で 59.5%。介護状態に関わらず前回調査から「いる」は増加。
- かかりつけ薬局の有無について、「決めている」は自立の人で 61.0%、要支援者で 70.8%、要介護者で 76.5%。前回調査と比較すると、要支援のみ「いる」は減少。
- 人生の最終段階における医療・療養について話し合ったことは、自立の人は「全く話し合ったことがない」、要支援者・要介護者は「一応話し合ったことがある」が最も多い。要支援者は「一応話し合ったことがある」が前回調査から 18.4 ポイント増加。

#### ①かかりつけ医・歯科医・薬局の有無（各項目、単数回答）



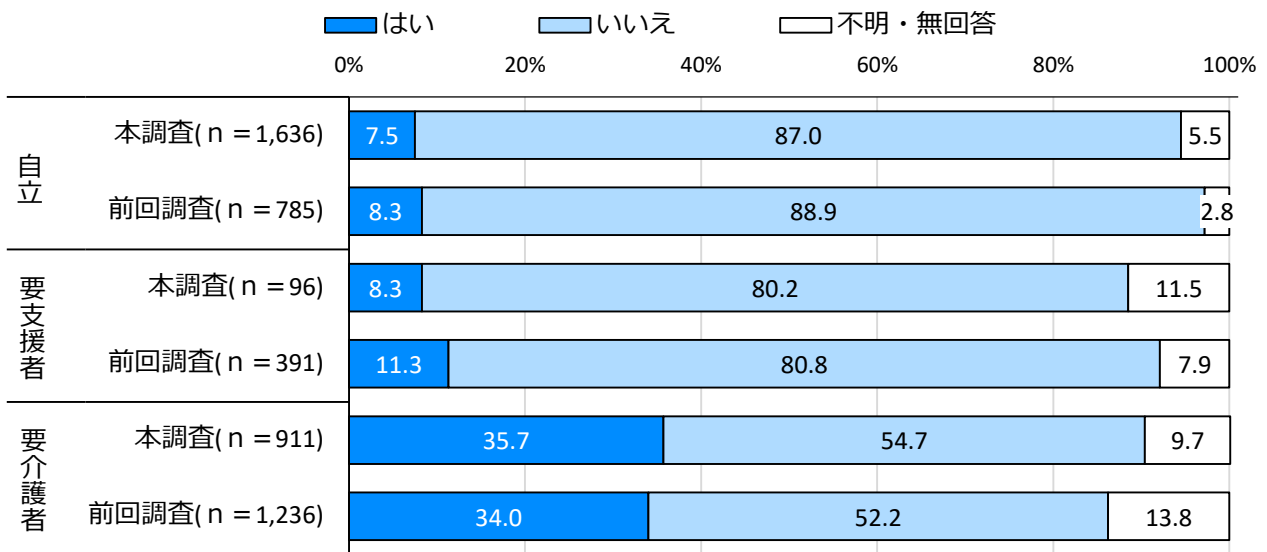
#### ②人生の最終段階における医療・療養について話し合ったことの有無（単数回答）



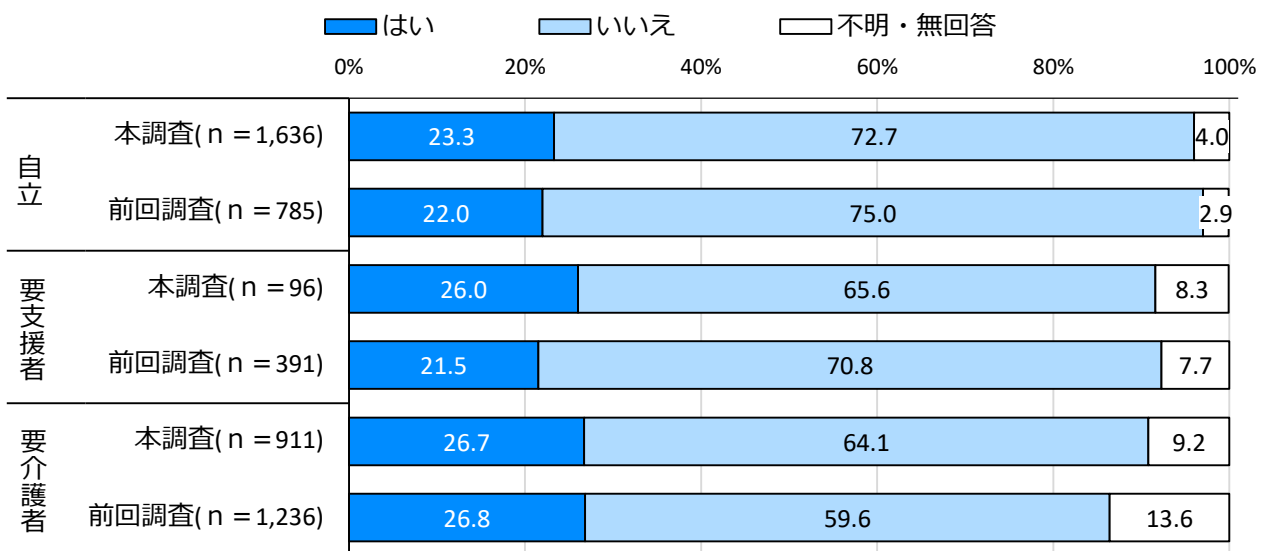
## (14) 認知症

- ご自身やご家族に認知症の人がいるか尋ねたところ、「はい」は自立の人で7.5%、要支援者で8.3%、要介護者は35.7%。前回調査とほぼ同じ結果。
- 認知症の相談窓口を知っているか尋ねたところ、「はい」は自立の人で23.3%、要支援者で26.0%、要介護者で26.7%。前回調査とほぼ同じ結果。

### ①ご自身やご家族の認知症症状の有無（単数回答）



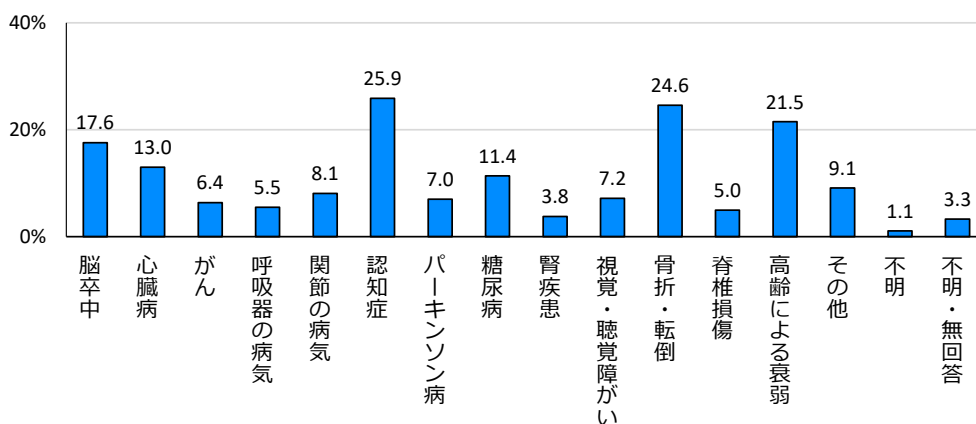
### ②認知症の相談窓口の認知度（単数回答）



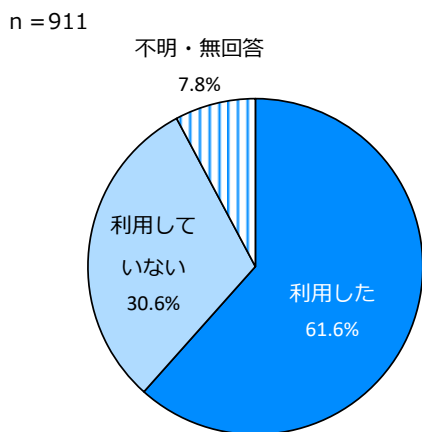
### (15) 介護保険サービス

- 介護・介助が必要になった原因は、「認知症」が25.9%で最も多く、次いで「骨折・転倒」。
- 介護保険サービスの利用状況は、「利用した」が61.6%、「利用していない」が30.6%。  
利用したサービスは「通所介護」が47.2%で最も多く、次いで「訪問介護」が40.8%。
- 利用している介護保険サービス全体を通しての満足度は、「満足」が56.9%、次いで「どちらともいえない」が8.9%、「不満」が2.8%。

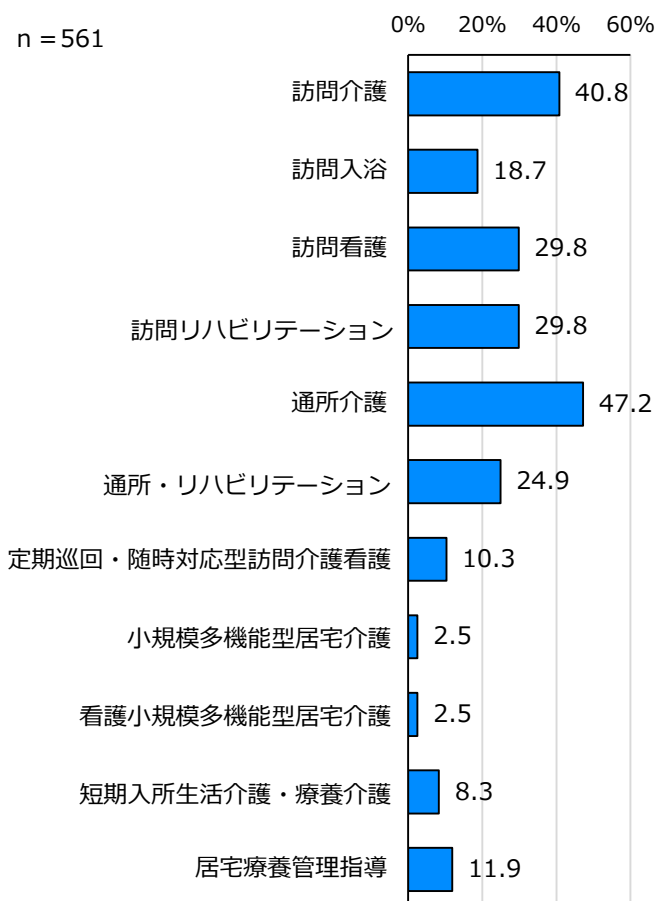
#### ①介護・介助が必要になった原因（複数回答）【要介護認定者調査】



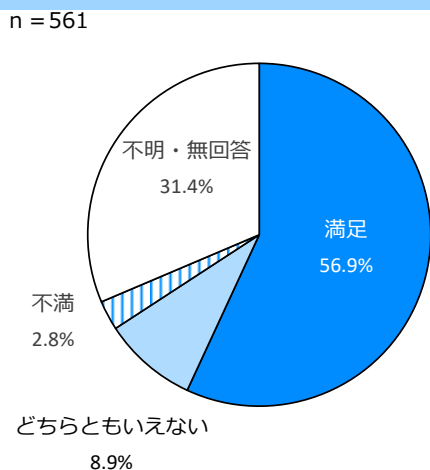
#### ②介護保険サービスの利用状況（単数回答）【要介護認定者調査】



#### ③利用したサービス（複数回答）【要介護認定者調査】



#### ④サービス全体の満足度（単数回答）【要介護認定者調査】

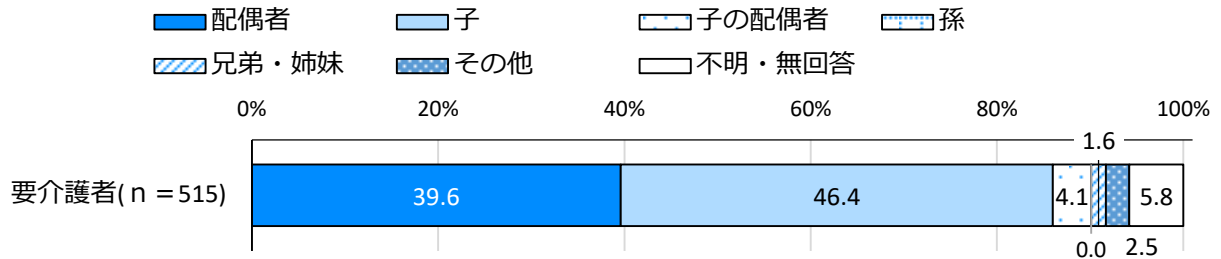




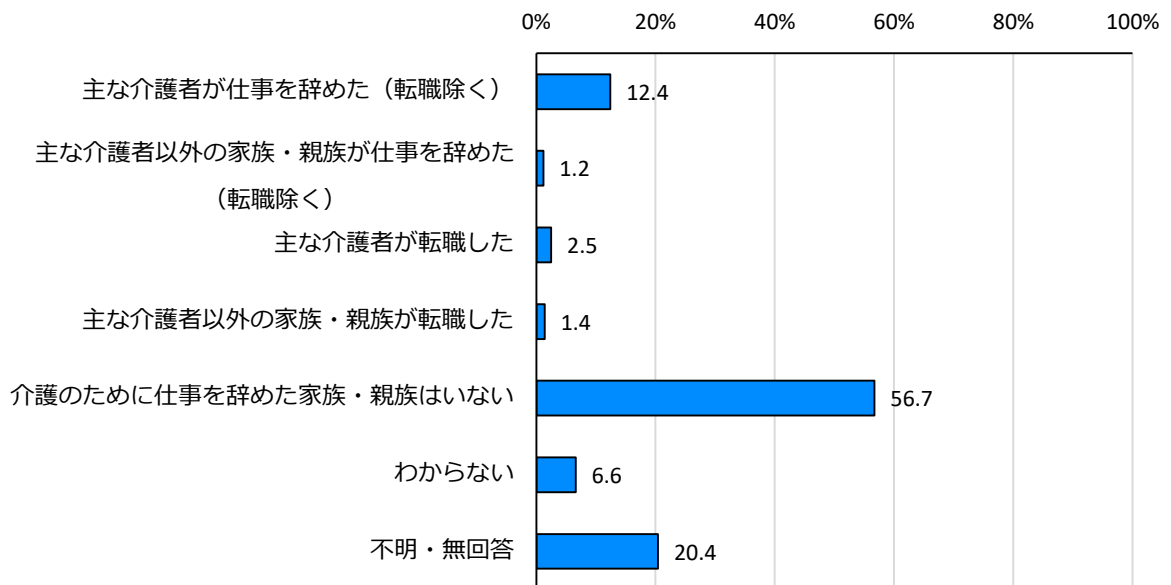
## (16) 介護者の状況

- 主な介護者は、「子」が46.4%で最も多く、次いで「配偶者」が39.6%。
- 介護を理由とした離職状況は、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が56.7%で最も多く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が12.4%。

### ① 主な介護者（単数回答）【要介護認定者調査】

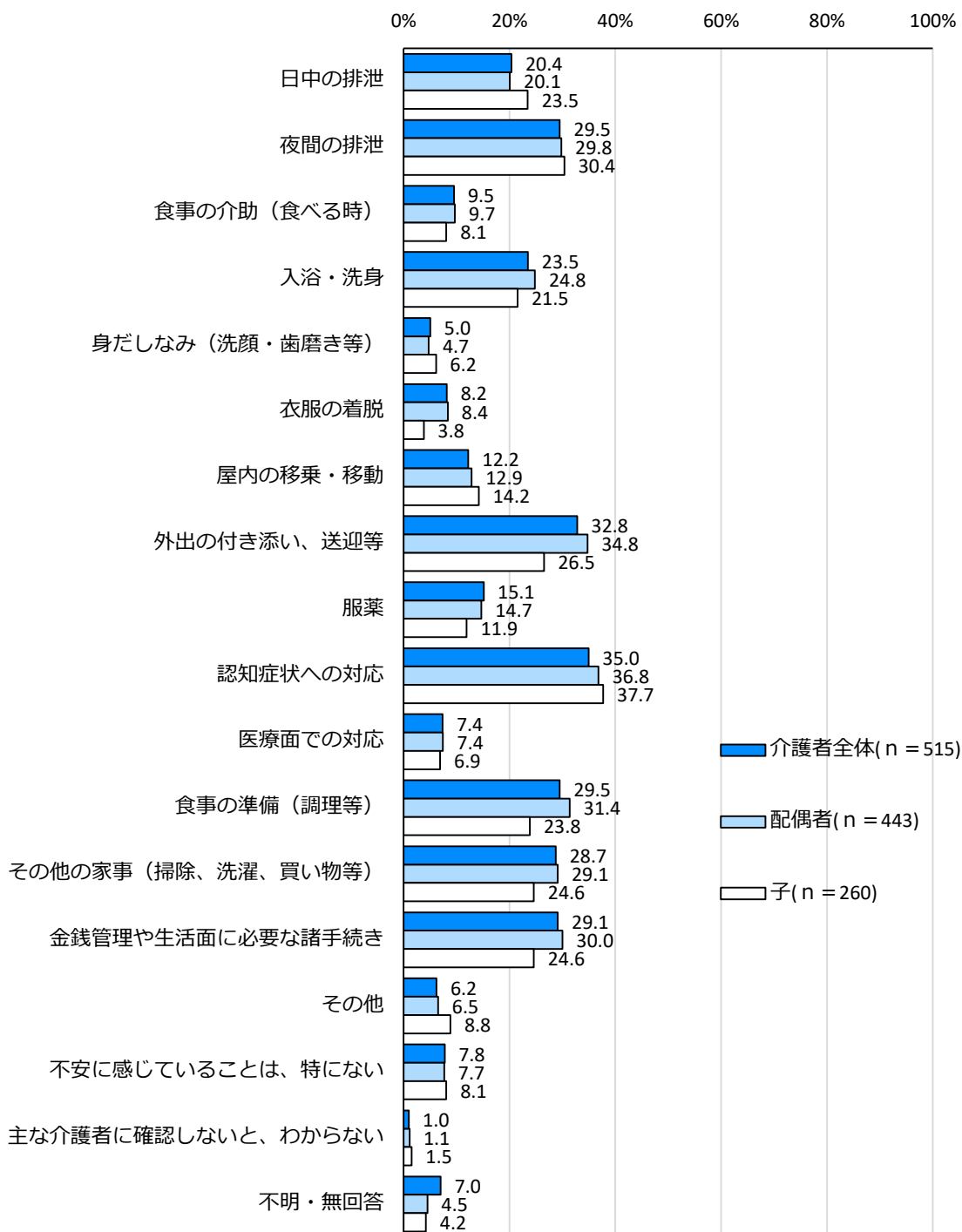


### ② 介護を理由とした離職状況（複数回答）【要介護認定者調査】



- 主な介護者が不安に感じる介護の内容は、「認知症状への対応」が 35.0%で最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が 32.8%、「夜間の排泄」「食事の準備（調理等）」がともに 29.5%。
- 主な介護者別にみると、配偶者・子ともに「認知症状への対応」が最も多く、次いで配偶者は「外出の付き添い、送迎等」、子は「夜間の排泄」。

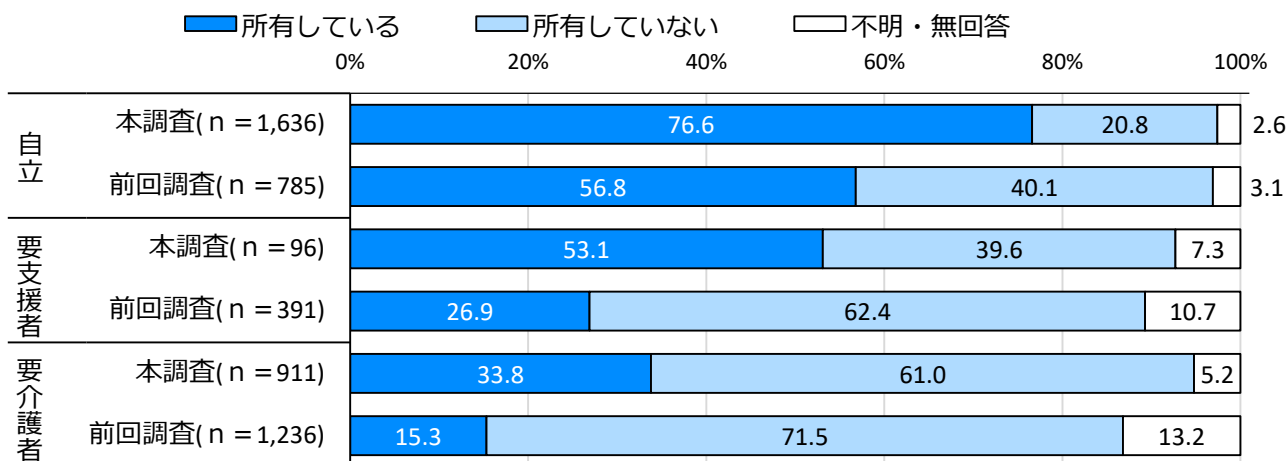
③ 主な介護者が不安に感じる介護の内容（複数回答）【要介護認定者調査】



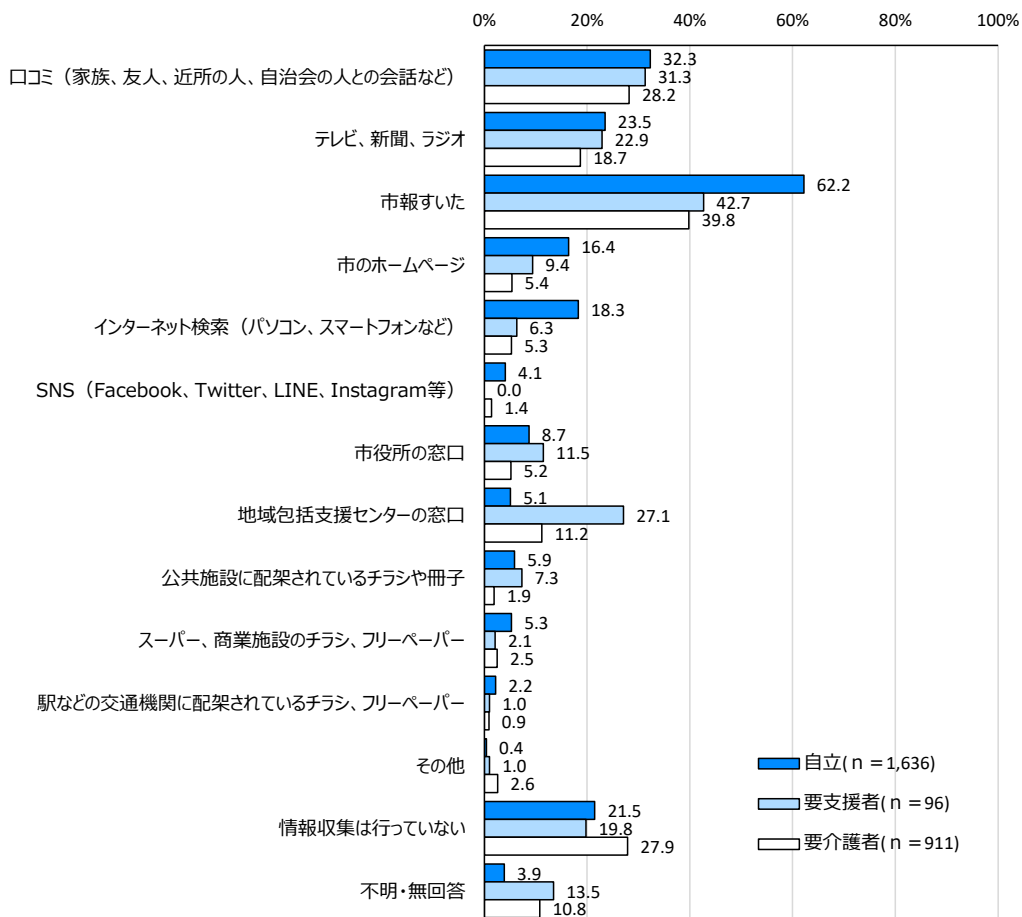
## (17) 情報収集

- スマートフォンの所有状況は、自立の人・要支援者は「所有している」、要介護者は「所有していない」が最も多い。「所有している」は大きく増加。
- 介護や生活支援などの行政サービスの情報収集手段は、介護状態に関わらず「市報すいた」が最も多く、自立の人は6割を超える。「地域包括支援センターの窓口」は要支援で27.1%と、自立の人・要介護者より10ポイント以上多い。

### ①スマートフォンの所有状況（単数回答）



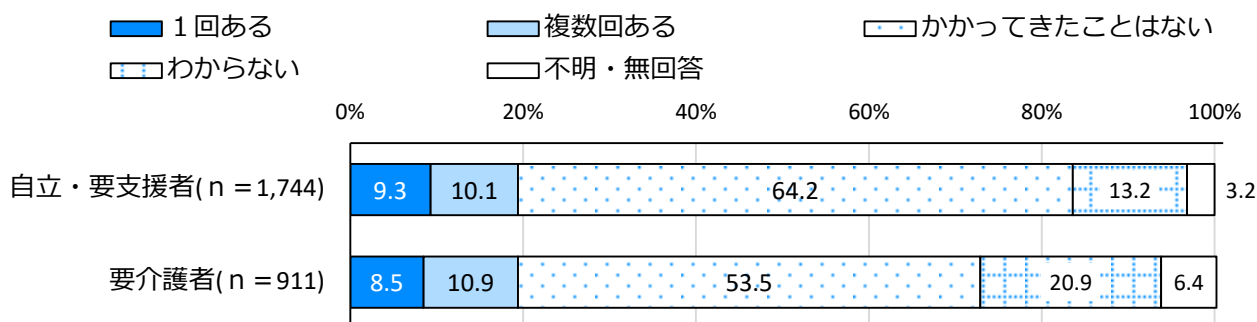
### ②介護や生活支援などの行政サービスの情報収集手段（複数回答）



## (18) 防犯・防災

- 過去1年間に特殊詐欺と思われる電話がかかってきたことは、自立・要支援者、要介護者ともに「1回ある」「複数回ある」を合わせた“ある”が約2割。地域別にみると、JR以南地域が21.9%で最も多く、山田・千里丘地域が17.6%で最も低い。
- 災害に備えた対策は、自立・要支援者、要介護者ともに「停電時に作動する足元灯や懐中電灯などの準備している」が最も多く、次いで「食料や飲料水、日用品などの準備している」。ほとんどの項目で自立・要支援者より要介護者の割合が少ない。

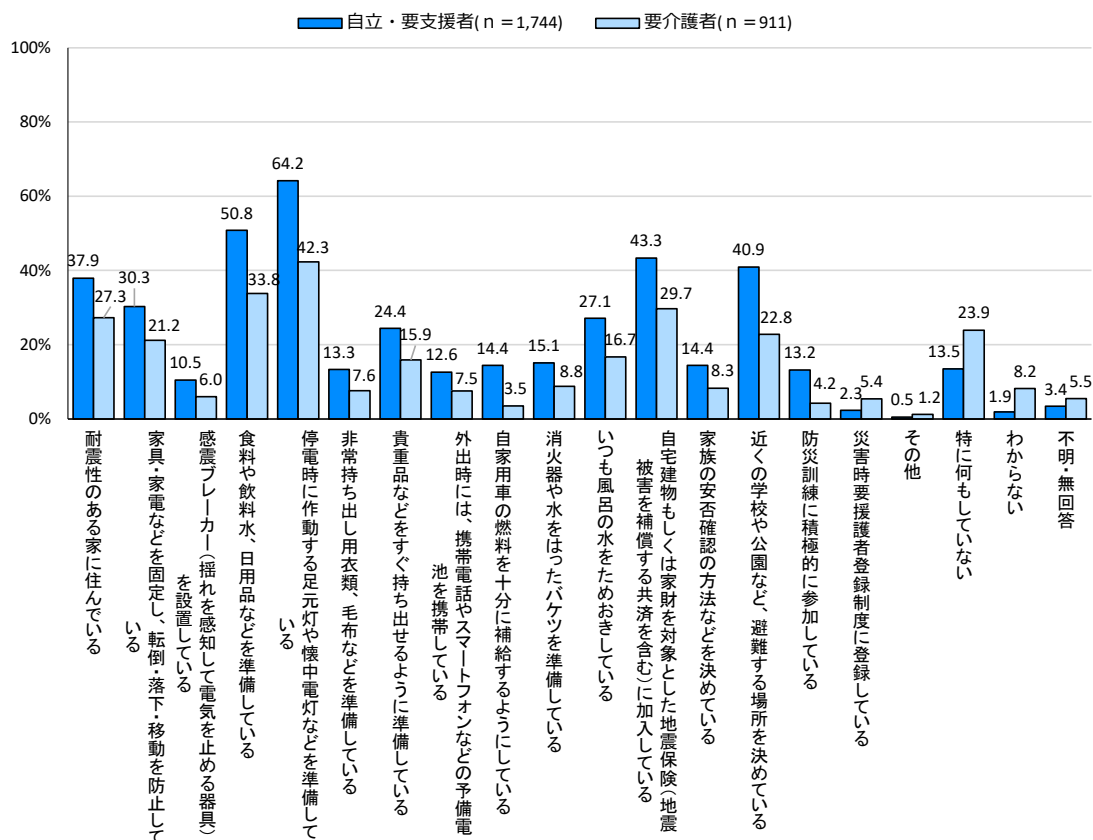
### ①過去1年間に特殊詐欺と思われる電話がかかってきた回数（単数回答）



### 地域別過去1年間に特殊詐欺と思われる電話がかかってきた経験のある人の割合

全体	JR以南	片山・岸部	豊津・江坂・南吹田	千里山・佐井寺	山田・千里丘	千里NT・万博・阪大
19.4%	21.9%	18.9%	21.2%	21.1%	17.6%	18.7%

### ②災害に備えた対策（複数回答）



## (19) 望む高齢者保健福祉施策

- 望む高齢者保健福祉施策は、自立の人は「特別養護老人ホームなどの介護保険施設の整備」、要支援者は「在宅福祉サービス」が最も多く、前回調査もこの2項目は多い回答。
- 「高齢者の見守り活動」は要支援者で42.7%と、前回調査から10ポイント以上増加。

### ①望む高齢者保健福祉施策（複数回答）

